

納本

世界維新に面せる日本

満川 龜太郎 著

特210

948

一新社叢書第一篇



\*0001853000\*

0001853-000

特210-948

世界維新に面せる日本

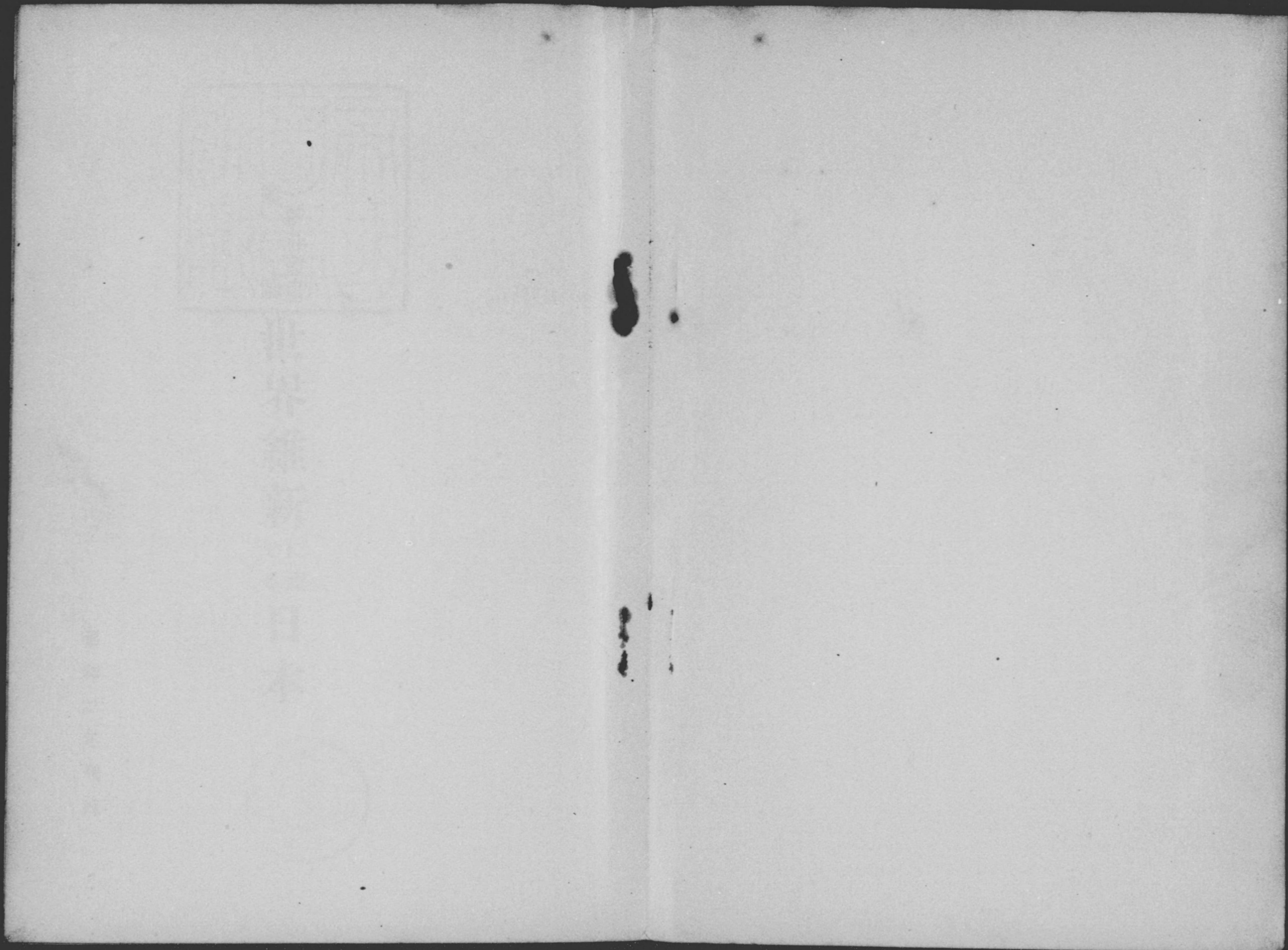
満川 龜太郎・著

一新社

昭和2

AAC







特210  
948



世界維新  
せに  
る面  
日本



昭和二年刊行



# 最近百五十年間世界重要年表

洲	面積 人口	重要年表	洲	面積 人口	重要年表	洲	面積 人口	重要年表	
歐	64萬平方里 45,000萬	1789 フランス革命 1789-94 フラテローロ戰 1815 ナポレオン(死) 1818 カールマルクス(生) 1819 汽船(大西洋) 1821 汽車(英米) 1830 汽船(英米) 1848 共運統 1869 スエズ運河 1871 フランス第一共和政 1895 フランス第一共和政 1906 フランス第一共和政 1909 フランス第一共和政 1914 大戦開始 1917 大戦開始 1919 大戦開始 1920 大戦開始 1924 大戦開始 1925 大戦開始	亞細亞	290萬平方里 87,000萬	1757 英國領土擴張 1786 英國領土擴張 1793 英國領土擴張 1820 英國領土擴張 1842 英國領土擴張 1853 英國領土擴張 1857 英國領土擴張 1864 英國領土擴張 1868 英國領土擴張 1872 英國領土擴張 1895 英國領土擴張 1901 英國領土擴張 1905 英國領土擴張 1917 英國領土擴張 1910 英國領土擴張 1912 英國領土擴張 1922 英國領土擴張 1923 英國領土擴張 1925 英國領土擴張	米 國	63萬平方里 12,000萬	(太平洋面) 1776 獨立 1783 獨立 1803 獨立 1819 獨立 1823 獨立 1846 獨立 1848 獨立 1853 獨立 1863 獨立 1867 獨立 1893 獨立 1899 獨立 1903 獨立 1914 獨立 1916 獨立 1917 獨立 1921 獨立 1924 獨立	(大西洋面) 1776 獨立 1783 獨立 1803 獨立 1819 獨立 1823 獨立 1846 獨立 1848 獨立 1853 獨立 1863 獨立 1867 獨立 1893 獨立 1899 獨立 1903 獨立 1914 獨立 1916 獨立 1917 獨立 1921 獨立 1924 獨立
1769—1919...150年			1757—1907...150年			1776—1926...150年			

## 序文に代へて

我等が久しき以前より大正十七年を以て、國家改造の重大時期であると做したのは、その年が明治維新の還暦に當れるからである。今、新帝の踐祚によつて大正は昭和と改元されたが、還暦は何等の支障なく我等の眼前に迫りつゝある。明年(戊辰)を以てその年は來るが故に、今年(丁卯)は正しく維新六十年に相當する。即ち維新史を以て當て筈むれば今年は慶應三年に在る。

我等は歴史が繰返へすものであるや否やを知らぬ。假し又繰返へすとしても、繰返へすのみが歴史の能でもあるまい。然かし乍ら孝明天皇の崩御が慶應二年十二月二十五日(陰曆)であり、先帝の崩御が大正十五年十二月二十五日であつたことを思ふと、六十年の尺度に一日の相違もなかつた天の攝理を畏れざるを得ぬ。

世界の大潮、東亞を中心として一大渦紋を畫くところ、民族の生活、鬱結して迸出の血路を求めつゝあるところ、所詮我等が日本は飛躍的改造を餘義なくされてゐる。我等は決して普通選挙を排斥するものではない、又無産政黨を無用視するものでもない。然かし乍ら我等は普通選挙と無産政黨とのみにて這の急迫せる時勢に應ずる能はざるを信するが故に、茲に多年の結盟を支持し來つた



のである。嗚呼、大鹽中齋九十年、明治維新六十年、西郷南洲五十年、而して露西亞革命十年の記念たる今年は何を意味するか。我等は最も明確に天下一新の時機來れるを覺悟せねばならぬ。豈に必しも第二維新と言はんや。將たまた昭和一新と言はんや。

昭和二年四月三日

## 一新社同人

## 小引

- 一、本書は著者が昨年五月、大阪基督教青年會館に於ける在阪同志主催新日本建設講演會の講演を骨子とし、之に同七月九州各地に於ける東洋協會大學講演會、同八月宮城縣氣仙沼夏期大學、本年一月埼玉縣丹莊自由大學等の連續講演臺本を参照して、若干の修正を施せるものである。
- 一、本書の世に出づるは在阪同志福田宏一老、岡田良作兄の斡旋に俟つところ最も多い。謹で茲に謝意を表す。
- 一、本書は一新社叢書の第一冊であるが、今後此種同人著書の續刊を期す。冀くば全國同志諸士によつて此の企てを賛援支持せられんことを。



◆満川龜太郎著作既刊書目

一、列強の領土的並經濟的發展	大正七年	廣文堂
一、今日の南米	大正八年	同
一、奪はれたる亞細亞	大正十年	同
一、東西人種鬭爭史觀	大正十三年	東洋協會
一、大邦建設の理想	大正十三年	社會教育研究所
一、黒人問題	大正十四年	二酉社
一、世界現勢と大日本	大正十五年	行地社

世界維新に面せる日本 目次

前篇 世界維新

第一章 世紀の分水嶺としてのヨーロッパ大戦

- 一、世界歴史には區劃がある……………一
- 二、人間と世界との發見……………二
- 三、ヨーロッパ大戦の規模……………二
- 四、世紀の分水嶺とは何か……………三

第二章 世界幕府としての大英帝國の動搖

- 一、古今の大帝國ローマと英國……………四
- 二、イギリスの世界的發展……………五
- 三、世界覇權の維持……………六
- 四、ドイツの挑戰的擡頭……………七



五、大戦後の大英帝国……………	八
六、民族運動の脅威……………	九
七、結合より分離へ……………	九
八、英人の英米聯合論……………	一〇
九、イギリスは何處に行く……………	一二
十、最後の努力としてのシンガポール……………	一三
<b>第三章 太平洋時代と米國の發展</b>	
一、世界中心の移動……………	一四
二、太平洋文明時代……………	一四
三、ヨーロッパ文明の没落説……………	一五
四、米國獨立百五十年……………	一六
五、米國の太平洋面進出……………	一七
六、米國の人口増加……………	一八
七、米國の最大懊惱……………	一八

八、黑白相容れぬニグロ……………	一九
九、黒人の代表的三傑……………	二〇
十、秘密結社クー・クラックス・クラン……………	二二
十一、新移民法の内容……………	二三
十二、ノルデック米國……………	二五
十三、ヴェルサイユ條約とワシントン會議……………	二六
十四、汎米主義と汎米聯盟……………	二七

#### 第四章 社會主義・民族主義・勞農ロシア

一、階級闘争と民族闘争……………	二八
二、ロシアを救つたレーニンの革命……………	二八
三、勞農ロシア建設滿十年……………	三〇
四、世界の三大革命家……………	三一
五、第三インターナショナルとは何か……………	三三
六、勞農ロシアの組織……………	三四



七、階級闘争より民族主義へ……………	三五
八、ロシヤは東洋の新雄邦……………	三七
九、シベリヤと北滿洲……………	三七
十、外蒙古と烏梁海……………	三六
十一、赤化宣傳などが何恐ろしい……………	三六
十二、ユダヤ陰謀論などは尙更である……………	四〇

## 第五章 アジヤ及びアフリカ復興と支那問題

一、百五十年間のアジヤ……………	四一
二、アジヤ分割が復興に代つた……………	四二
三、復興の第一線はトルコ……………	四四
四、エジプトも亦甦つた……………	四五
五、ペルシヤも亦トルコを追ふた……………	四五
六、アフガニスタンも亦復興の氣に充つ……………	四六
七、沙漠の王者イヴン・サウド……………	四八

八、ヨーロッパ列國の支那侵略……………	四九
九、アジヤ横斷四大鐵道……………	五〇
十、覺醒しつゝある支那……………	五〇
十一、二様の支那觀察……………	五一
十二、新支那の渦を見よ……………	五一

## 後篇 維新日本

### 第六章 明治維新六十年

一、日本は變て維新還曆を迎へる……………	五二
二、日本は世界に遅れて出た……………	五三
三、明治維新の洪漠……………	五七
四、歐化論の時代もあつた……………	五八
五、國權は劍の力で回復された……………	六〇
六、今日の絶對行詰り……………	六〇



七、人口増加一年百三十萬……………六

八、危機迫れる食糧問題……………六三

九、商工政策か農業立國か……………六五

十、民族移動と大邦建設……………六八

十一、寒帯文明時代……………七二

十二、二つの使命と維新日本……………七三

挿 繪

孝明天皇、明治天皇御眞影

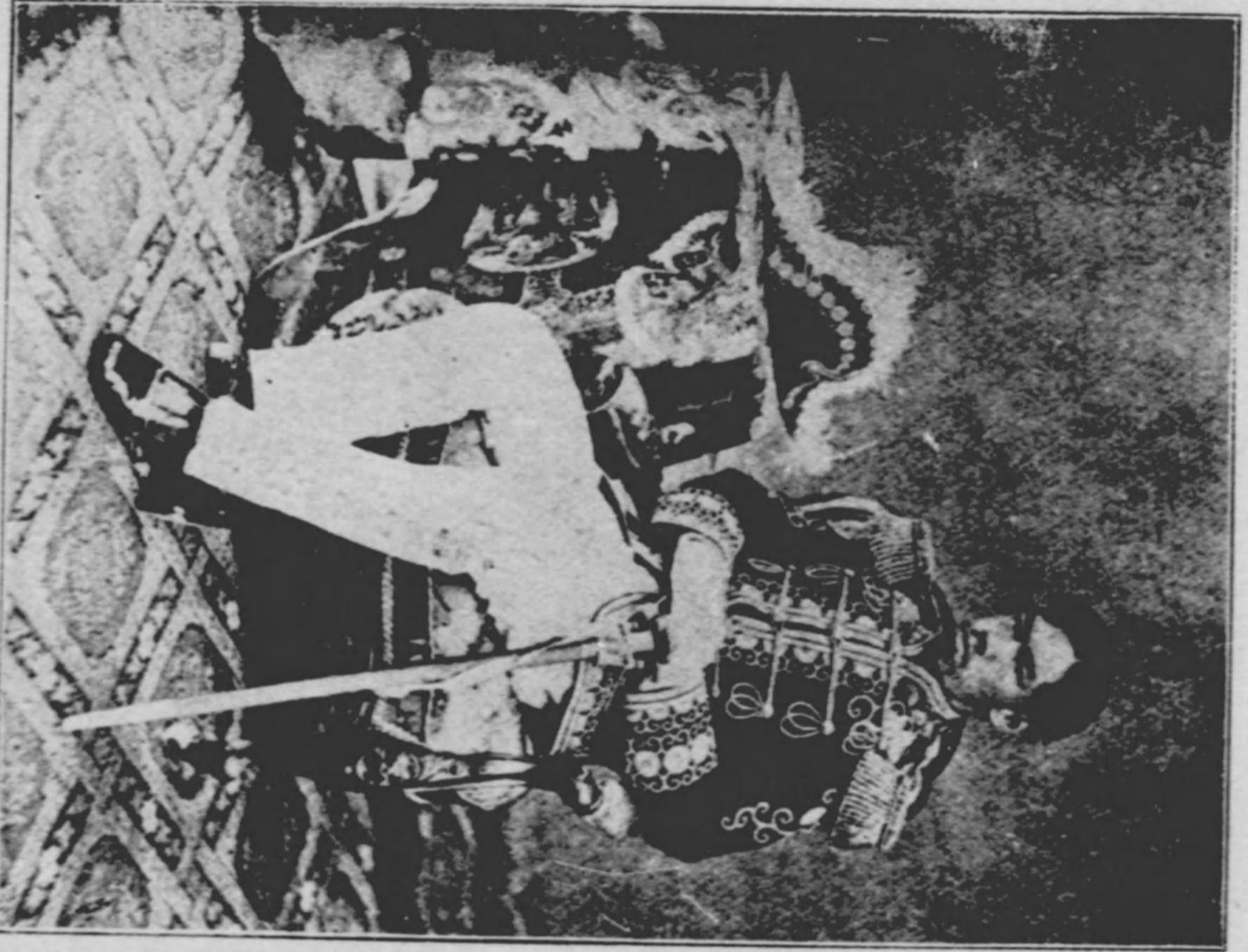
黑人解放運動の戰士、ブーカー・ワシントン氏、デユ・ボア氏、ストーレー氏、マーカス・ガーヴェー氏及び同夫人

カムチャツカの首都ペトロパヴロフスク

復興アジヤの關門スタンプールとチユニス志士マホメット・アリー氏自署

アフガニスタン志士モヘンドラ・プラタブ氏

大鹽中齋先生、西郷南洲先生、



皇 天 治 明



皇 天 明 孝



# 世界維新に面せる日本

満川 龜太郎 著

## 前篇 世界維新

### 第一章 世紀の分水嶺としての

#### ヨーロッパ大戦

一、世界歴史には區劃がある 人類歴史始つてこゝに五千年、判然し出してからでも三千年に  
なります。然かしこの長い間の歴史は往昔から今日まで決して一樣のものではありません。たとへ  
ば歴史は水の流れるが如きものでありますが、何時でも平かに流れてゐるのではなく、時に湛えて深  
淵となり、時に激して飛沫となり、時に懸つて瀑布となり、時に漲つて大江となります。この甲か  
ら乙、乙から丙への情態の變化が歴史の區劃であります。竹に節あるが如く、歴史にも節、即ち區  
劃があるのであります。



二、人間と世界との發見 現代の世界史はすべてがヨーロッパ大戦から始まります。つまりヨーロッパ大戦を區劃として、世界は新舊の兩世界に分かれたのであります。この大戦によつて世界の政治、經濟、社會、軍事、文化其他あらゆる方面が、非常な影響と變化とを受けました。それ故今日は萬事を大戦以後の新しい尺度で測らねばなりません。古い物指を以て新しき衣を測らうとしては、飛んだ間違を惹き起さずには措きませぬ。往昔ヨーロッパに於て文藝復興のあつた時、或る史家が「文藝復興とは人間と世界との發見である」と叫びましたが、今度の戰爭に就いても正にその通り評せらるべきであります。世界維新といふ言葉の意味はこれであります。

三、ヨーロッパ大戦の規模 ヨーロッパ大戦は一九一四年六月廿八日、セルビヤの一青年がボスニヤのサラエボに於てオーストリーの皇太子及皇太子妃を射殺せしことから端を發し、一九一九年六月廿八日、ヴェルサイユ宮殿鏡の間でドイツと聯合國との間の講和條約締結によつて終を告げました。此の間滿五ヶ年の日子を硝煙彈雨の裡に送つたのであります。この大戦に直接間接參加した國は、ドイツ側四國に對し、聯合側の宣戰布告國二十二國、外交斷絶國七國、合計三十三ヶ國でありましたから、大戦前世界の獨立國五十一國の中三分の二まで關係した譯です。又この大戦の拂つた犠牲は幾何であつたかを調べますと、米國イリノイス大學教授ボガルト氏の著書によると、死亡人員一千二百九十九萬人、直接純戰費一千八百六十三億弗、間接戰費一千五百十六億弗、合計三

千三百七十九億弗、邦貨に換算すれば六千七百五十八億圓といふことになります。大正十二年の關東大震災は、最大限に見積られて百億圓の損害と稱せられましたが、それでも之を大戦の損害に比較すれば僅に其の六十八分の一に過ぎなかつたのであります。以て如何に大戦の規模が大きかつたかと判ります。

四、世紀の分水嶺とは何か かゝる大規模のヨーロッパ大戦が、世界史的に有する意義の中、最も重大視せねばならぬことは、世紀の分水嶺になつたといふことであります。世紀とは西曆で百年間を意味し、通常曆の上から十九世紀とは一八〇一年から一九〇〇年まで、二十世紀とは一九〇一年から二〇〇〇年までを指すのでありますが、歴史の上から見ると十九世紀二十世紀共に十五年乃至二十年ばかり遅れて居ります。即ち歴史的事實の上から見た十九世紀とは一八一五年のウオタルロー戦争より一九一四年ヨーロッパ大戦開始の年に至る滿百年間を指すのであつて、或は今一層嚴密に一八二一年のナポレオン没落より一九二一年のワシントン會議に至る百年間と言つても差支へありません。何故斯様に見るかと言へば、夫の天下第一の英雄としてヨーロッパの覇權を掌握して居つたナポレオンが、英將ウェリントンとウオタルローに戰つて敗れて以來、その勢力は遂に没落してセントヘレナの孤島に淋しく死しました。この事件がヨーロッパの歴史に一段落を劃して、それ以來ナポレオンのフランスに代ふるに、イギリスの勢力が全世界に及ぶやうになりました。か



くてイギリスはヨーロッパ大戦に至る滿百年間、十九世紀の世界覇權を握り、天下何者と雖も之を來り犯すことは出来ないほどの勢力を振つたのであります。然るに此の大戦は世界の局面に非常な變化と影響とを與ふると共に、さしも天下第一を誇つたイギリスをして、國勢漸く下り坂に向はしむるの端を開きました。イギリスが果して今後の滿百年間も前世紀同様の地位を保持し、世界を管制して行けるかどうかは非常なる疑問であります。此の意味に於てヨーロッパ大戦を世紀の分水嶺として見ることは、誰しも異存は無からうと思ひます。

## 第二章 世界幕府としての大英帝國の動搖

一、古今の大帝國ローマと英國 今は故人となりましたが、久しくエジプトの總督であつたクローマー卿が、曾て『古今の帝國主義』といふ書を著はして、昔日のローマ帝國と今日の大英帝國とを比較し、是れ帝國主義の双璧であると言つたことがありました。その通りにローマはヨーロッパの上古史を彩る最大の帝國であつたに相違ありません。ローマの世界征服策は紀元前二六四年から二四一年にかけての第一回ポエニ戦争を以て發せられました。ローマの全盛時は紀元一〇一年より一一五年に亘るトラヤヌス帝の時代であります。當時ローマの人口は一億に達し、その面積は二

百五十萬平方哩に亘つたと稱せられて居ります。今より約二千年前、我日本の現在面積に十倍する大帝國が存在して居つたのであります。然かし乍ら昔日のローマ帝國に比較して、今日の大英帝國は一層規模雄大であり、業績雄偉を極めて居ります。大英帝國は大戦前に於て、地球上總人口の殆ど四分の一、即ち四億一千万の臣民を有しました。その中四千四百萬人のイギリス人を除けば、他の三億六千萬は殆どすべてがアジア及びアフリカに於ける有色人でありました。面積も亦全世界の五分の一、即ち一千三百萬平方哩を算し、昔日のローマ帝國に五倍強の領土を占めて居りましたが、ヨーロッパ大戦後ドイツの領土等を併合するに及び、更に擴大せられました。

二、イギリスの世界的發展 イギリスは一七五七年ブラシーの戦に於てインドの死命を制しましたが、世界を支配するに至つたのは其の後の一八一五年ウオタルロー戦に於ける決定的勝利を得てからであります。かくて十九世紀の天下はイギリスの掌中に落ち、海上に於ては無敵の覇者となり、植民政策に於ても大なる優者となりました。即ちイギリスは此の百年間に於てインドの主權を收めて、女王ビクトリヤは印度女皇の尊號を有するに至り、一八一九年にはシンガポールを、一八二六年より八六年に至る間にはビルマを、一八三九年にはアデンを、一八五七年にはペリムを占領しました。又一八四二年には阿片戦争によつて香港を收め、太平洋に於ては濠洲全部及びニュージランドをイギリス國旗の下に置き、地中海に於ては一八七八年キプロス島をトルコより奪ひまし



た。又アフリカに於ては次第に南部及西部に其の領土を擴め、殊に一八七五年突嗟の間にエジプトよりスエズ運河の株券を買収し、一八八二年アラビイパシヤの叛亂に乗じてエジプトの積極的經營を開始し、最後に一八九九年より一九〇二年の間、ボーア人のオレンヂ、トランスバール兩共和國を征服して茲に大英帝國最終の建設を終りました。かくてイギリスは世界幕府として一切の富と權力とを集中し得たのであります。

### 三、世界覇權の維持

實に十九世紀の中葉に於ては、イギリスの上下を擧げて永遠に世界列國に冠絶すべきことの確信に充ちて居りました。海にはネルソンあり、陸にはウエリントンあり、光輝ある文學史はバインズ、スコットに始まつてマコーレー、ヂッケンズに終り、發明發見は其の獨占に歸し、天下一人と雖も其の鼎の輕重を問ふ者とは無かつたのであります。就中多年養ひ來つた其の經濟的勢力は此の時に於て絶頂に達し、世界財權の中心はロンドンに集り、世界船舶の七割は英國々旗を翻へし、世界石炭産額の三分の二はイギリスより出で、ヨーロッパ鐵道の哩數を總計するも尙イギリスに及ばず、イギリスの綿糸及び鐵産額は世界産額の合計を超え、綿布産出國としては世界獨歩の地位を占めました。「英國は自ら一個の世界である。其の富に於て、其の力に於て遙に他の列國を抜いてゐる」とは『ドイツ國民經濟論』の著者フリードリヒ・リストの嘆じたところであります。

### 四、ドイツの挑戰的擡頭

然るにこゝに大英帝國に對して勇敢なる挑戰的態度を取つて出現し來つたのがドイツであります。ドイツは未だその帝國の統一せられざりし時、フランスのヴオルテールによつて「イギリスは海を支配し、フランスは陸を支配し、ドイツは雲を支配す」と嘲笑せられたこともありました。一八七一年プロシヤを中心としてドイツ帝國を建設して以來、非常な努力を以て國勢の發展を圖り、産業に、軍備に、教育に、科學に、有らゆる方面に目覺しき進歩を遂げ隆々として幾多の先進國を凌駕するに至りました。殊にカイゼルは「ドイツの將來は海上に在り」となして海軍及び海運の發展に努め、「ドイツは雲を支配す」と言はれし嘲笑をその儘ツエベリン飛行船の建造に銳意して空を支配するに至り、又フリードリヒ・リストの指したアジヤ・トルコ地方の植民的發展に志し、所謂ベルリン、ビザンチン（コンスタンチノープル）バグダードの三B點を連ぬる三B政策を實現すべく、バグダード鐵道の敷設權を收めて、バルシヤ灣に出づる大雄圖の遂行に急いだのであります。此等のすべてはイギリスより見て、結局大英帝國の覇權を脅威するものであります。さすがの冷靜なるイギリス人も、ドイツに對する警戒を嚴重にし、到底戰爭が免れない以上は、早い間に叩きのめして將來の禍根を斷たうとまで考へるやうになりました。一九一〇年エドモンド・コックスといふ人が「ドイツの行爲はすべてが非友誼的である。ドイツの好辭は何物をも意味しない。ドイツが戰爭をしたければ何時でもその希望を叶へやう。但海戰を開く時期は



我イギリスで擇ぶべく、断じて之をドイツに委すことは出来ぬ。而してイギリスの欲する時期は即ち只今である」といつたが如きは其の一例であります。勿論イギリスの政治家中にも最後までドイツと妥協して行かうと考へ、現に開戦直前ドイツとバグダード協定なるものに調印を終へたほどでありましたが、皇帝が未だ批准を與へない先きに、開戦論が勝を占め、ドイツのベルジウム中立侵害を屈強の理由として宣戦を布告するに至りました。かくて曠古の大戦は開展して行きましたが、ドイツが最初にイギリスを敵に回した結果は、遂にあの通りの國際的孤立に陥つて、個々の戰鬪に於ては一步も敵兵を國內に入れずに居りながらも、餘義なくヴェルサイユ會議の法廷に引ずり出され、遂に屈辱的講和條約に調印するの已むなき次第となりました。

### 五、大戰後の大英帝國

イギリスは講和會議に於て、南阿のスマツツ將軍等が中心となつて國際聯盟を作り上げました。最初この聯盟を提議したのは米國でしたが、後には全然イギリスの都合よきやう御膳立を整へました。又アフリカに在つた廣大なるドイツ領土の大部分をその掌中に收め大英帝國を外形から見ると彌が上にも膨脹して行きました。イギリスは三〇政策と言つて、ケープタウン、カイロ、カルカッタの三地點を結び付け、アフリカ縦斷とアジャ横斷との政策を宿願として居りましたが、今やその宿願を實現すべき時代が到達しました。イギリスはかくして十九世紀に誇つた世界幕府を、今後も永く維持して、夫のマクスオレルが言つたが如く「一旦噛み付いたが最

後どんなことがあつても離さぬ」といふジョンブル氣質を露骨に示さうと思つたのであります。

### 六、民族運動の脅威

若しそのやうな注文通りに行くならば大英帝國萬歳であります。中々さうは問屋の方で卸さず、こゝにイギリスは戦後非常に重大なる難關に出喰はしました。それはヨーロッパ戰爭によつて有色人種の著しき自覺と擡頭とを促がし來つたことでもあります。イギリス領土の大部分がアジャ及びアフリカに在り、此等は悉く有色人種の國であるところから、イギリスは有色人種の離叛を防ぎ、進んで本國への忠誠を盡さしめんがため、戦時中此等の諸民族に對し自治或は獨立の約束をしたのであります。講和後に至つて約束手形の支拂期限は來ました。エジプトもインドも、ヘチアスも、イラクも相争ふて之を要求しました。而してイギリスがこの要求に對する實行を躊躇せんとするや、到るところに反英運動は擴がりました。同じ白人の仲間内であつて、イギリスの御膝下にあるアイルランドですら、獨立運動をやつた揚句、一九二一年十二月アイルランド自由國の名の下に、濠洲やカナダと同じ自治領を得たほどでありますから、況して有色の異民族が大英帝國主義の羈絆に忍び得ず、一齊に起つて反抗を試みたことは、必しも理由なきことではありませぬ。そのためアラビヤの砂漠にも、ナイル河畔にも、將た又インドの平原にも、有色民族の尊き鮮血が流れました。

### 七、結合より分離へ

その結果一九二二年二月イギリスは遂にエジプトの獨立を許すことゝな



り、次でエジプト獨立運動の父といふべきザグルル・パシヤ翁は、國民の非常なる歡呼の裡に流涕地より歸國しました。今日エジプトはザグルルの率ゐる國憲黨が議會の最大多數を占めて居ります。エジプト國民の大部分はアラビヤ系たるアジャヤ人でありませんが、南アフリカ聯邦の國民は大抵オランダ系のボーア人であります。此のボーア人は先に述べし如くイギリスに征服せられた國民でありますから本國に對して餘り好感情を有たず、ヘルツォグ將軍の率ゐる國民黨の如きは露骨なる反英運動を試み、是亦今日議會の多數を占めて居ります。南アフリカ聯邦では從來イギリス國旗を掲げて居りましたが、今度別個の國旗を制定しやうといふ議が起きて居ります。かくの如くこの國も亦精神的には、決して大英帝國に結合して居る者ではありません。更にインドが全部的にイギリスに反抗しつゝあることは今更言ふまでもないことであります。インドはブラシーの戦後滿百年なる一八五七年大叛亂を企てましたが、志成らずして壓抑されてからは一切の武器を取り上げられたがため、武力による革命手段を取ることが出来なくなりましたが、大戰以來或はガンデの國產運動となり、或はダスの自治運動となり、今日ではモチラル・ネールによつて深刻なる國民運動が繼續されつゝあります。かくの如く今日の大英帝國は結合よりも分離の傾向が強くなつてゐるのであります。

#### 八、英人の英米聯合論

かくイギリスは内に惱ましき民族運動が爛熟して居りますが、外には米國と勞農ロシヤとが各異つた意味に於てその存在を脅かして居ります。ロシヤのことは姑く措き

米國がヨーロッパ大戰を機會として雲入道の如く地球の一角より擡頭し來り、次第にイギリスの堅壘に迫りつゝあるのは、刮目すべき一大事實であります。英米兩國はサクソン民族の同根より生じて居りますが、今日兩國の國勢を比較し來ると、正に午前と午後との相違があります。太平洋を支配せんとする米國の野心が日一日濃厚となりつゝあるとき、イギリスは敢然として「光榮ある孤立」を誇る昔日の雄心を銷磨して了ひました。英米の共同、アングロ・サクソンの世界支配、こんな標語が米人の口より聞かれずして、却て英人の聲として發せられるに至りました。有名なる論客エリス・パーカーは曰く

戦争は略ぼ武力の相均しき國の間にかかるのが常である。世界がローマに支配せられた間には戦争は起らなかつた。英米一致してローマ帝國ならば世界は永遠に平和である。兩國を連ねれば其の人口は白人のみで一億五千萬に上り、三億に達するも懸て近いことである。又兩國の領土は世界面積の三分一を占め、世界富源の半以上を蔵してゐる。兩國は何時でも最大の陸海軍を建設し得るのみでなく、世界の食糧、石炭、鐵、銅、錫、金、銀、ニッケル、鉛、亞鉛、綿、羊毛、石油、護謨等の半以上を産し、且つ工業並に海運の能力に於ても世界の半以上を占有してゐる。兩國の聯合によつて何事をも成就せざることゝてはない。世界は速かに英米の結合によつてローマの平和を樂しまねばならぬ



と、然かもこゝに注意すべき點は、パーカー氏の列擧せし物資の大部分が、最早イギリスより産せずして米國より出づることと是であります。食糧は勿論のこと鐵でも石炭でも米國は遙かに英國を凌いで居ります。大戰以來殊に列國の注目する石油の如き、是れ亦英國は到底米國の敵ではありません。米國は果して英國よりの聯合の注文に應ずるでせうか。

**九、イギリスは何處に行く** 大英帝國衰亡の豫覺が、今や週期的にイギリス社會の一般を襲ふ

て居ります。英本國に於ける産業の危機は到底僅かばかりの膏藥療治を施して見たところで駄目らしく思はれます。昨春一九二六年世界の耳目を聳動せしめた空前の炭坑夫罷業は、ボールドウイン首相の所謂「常識の勝利」で止まりましたが、炭坑國有問題の今日に至るまで解決が出来て居なかつたところにイギリスの大なる禍根があります。イギリスが農業を抛擲して自由貿易を取り、世界文化の中心に座し得たのは、既に大戰前の古き物語と化し去りました。大英帝國の老舗が維持されたのは、世界に日没を見ずといふ大領土の上に、土民が忠誠を表し來つたからであります。忠誠と自覺とは兩立しませぬ。況んやサクソンの兄弟國が果して何日までその兄に對して友情を表するでせうか。イギリス中心の世界幕府としての覇權は今や明かに動搖し出しました。ロシアのトロツキーは近頃『英國は何處に行く』といふ書物を著はして「イギリス労働黨の領袖が妥協に馴れて、ロシアの如き思ひ切つた革命をなし得ないことは、内治をして一層絶望的に陥れる。又保守黨や自由

黨では既に時勢の進展を擁護して行くだけの能力が無い。又大戰後の米國の異常なる發達は、どうしても英國の衰滅を早めざるを得ぬ」と言つて居ります。勿論その言の中には政略的の意味も含まれて居りませうが、吾人をして大に首肯せしむるに足る點もあるのであります。

**十、最後の努力としてのシンガポール** 然かし乍ら苟くもイギリスは今まで世界幕府を維持

し來つたのであります。夫のナポレオンを以てヨーロッパの天下を平定せし織田信長とするならば大英帝國は信長の後に來つた徳川家康であります。その周到なる用意に於て、その綿密なる計畫に於て、將た又自己を維持せんが爲めには他の何者をも犠牲に供して顧みざる老獪さに於て、今日の大英帝國はすべてが徳川家康と比較さるべきであります。イギリスはその大帝國が一朝にして無慘なる終焉を告ぐべしとは思つて居りませぬ。そこでその最後の努力をシンガポール軍港の建設に致して居るのであります。シンガポール軍港は、弛める大英帝國の箍を締め直すべき楔としてマレー半島の鼻先に打ち込まれて居るのであります。之によつてインドの革命的機運を抑へ、支那の改造を妨げ、日本の海上飛躍を牽制しつゝ、太平洋に於ける海上權力を維持すべく、孜孜として其の準備を急いで居るのであります。シンガポール軍港の建設は、別段ワシントン會議の條文には背るては居りませぬ、けれどもその精神には立派に背るたものと謂ふことが出来ます。この軍港が完成した際には、我國に取り、日露戰爭の旅順よりも近いことを覺悟せねばなりません。



### 第三章 太平洋時代と米國の發展

一、世界中心の移動 ヨーロッパ大戦は世紀の分水嶺を成すと共に、世界の中心を大西洋より太平洋へと移動せしめました。之はもとより歴史の推移と文明の潮流との然らしむるところであります。私共が少年時代に教科書として使用した世界地圖を見ると、世界の中心はグリニッチ天文臺を有するイギリスであり、米國はその西に日本はその極東に在りました。然るに大戦後に出來た世界改造地圖を見ますと、一部のイギリス製を除き、今まで世界の中心に在つたイギリスは西方に移り、西方に在つた米國は東方に移り、我日本が世界の中心に來て居るのであります。此の世界地圖の描き方が相違して來たことから考へても、世界の局面の變化を察知し得るのであります。

二、太平洋文明時代 ドイツの地理學者カール・リツテルの説によれば文明に河川文明、内海文明、太平洋文明の三階段があります。支那、インド、バビロン、エジプトの如きアジアの古代文明は黃河、恒河、チグリス、ユーフラチス、ナイル等の大河に沿ふて發生しましたから河川文明であります。それが東から西に移つて地中海を中心とするギリシヤ、ローマの内海文明時代となりました。而かもその潮流は更に西に流れて、コロンバスの大陸發見以來、ヨーロッパと米大陸との間に

湛ふる大西洋を中心とし、茲に所謂ヨーロッパ文明、物質文明の華を開きました。十九世紀は實にこの大西洋文明の末期でありまして、その代表者たりしイギリスが、大西洋文明時代の終末と共に世界幕府の覇權に動搖を感じて來たのは無理もない次第であります。パナマ運河がヨーロッパ大戦開始の年たる一九一四年に竣工し、翌年開通式を挙げたことにも深い意義が發見せられます。この運河の開通によつて大西洋文明の潮水が、非常な勢を以て太平洋方面へと流れ込みました。而してこゝに太平洋文明の後期ともいふべき太平洋文明時代を開展して参りました。支那やエジプトの古代文明よりも更に以前、即ち今より五千年乃至一萬年の太古に於て、太平洋文明時代が存在して居つたと唱ふる學者もあり、メキシコ、ペルー、ボリヴィア等の中南米諸國から發見せらるゝ遺物に徴して左様であつたことを想像しますと、歴史が大なる圓周を畫いて一回轉し來つたことを否定する譯には行きませぬ。

三、ヨーロッパ文明の没落説 今度のヨーロッパ大戦が起るに至つた原因を調べますと、もとより一二にして盡くされませぬ。先きに述べし英獨間の國際競争を始めとし、汎ドイツ主義と汎スラヴ主義とがコンスタンチノープルに於て衝突したことなども重大なる原因に算へられますが、何と言つてもその最大なる原因は、ヨーロッパの土地が古く狭く、こゝに四億五千萬の人類が棲息して二十三の國家が互に國境を相争ふたからであります。アジアとヨーロッパとを合せてユーラシヤ



大陸と申しませんが、ヨーロッパはユーラシア大陸の一半島に過ぎませぬ。この狭小にして地力衰へ生活資料の缺乏して居るところに、かくの如き多數の人間が棲息して居るのでありますから、闘争が起るのは當然であります。果してこの闘争は大戦となつて出現しました。然かも事實この大戦によつてヨーロッパの諸國がどれ丈け利益するところがあつたかと言へば、殆ど權指すべき何物をも發見せなかつたのみならず、却てこの戦争は結局ヨーロッパ自身の自殺を促すべき愚劣なことであつたことに氣が注きました。スベングラールとかドマンゼオンとかいふ人々によつて、ヨーロッパ文明没落論を聞くに至つたのも、それからであります。ヨーロッパ文明の没落は之と反對にアジア文明の復興を意味します。有色人種の權頭を意味します。もつと具體的に近い例を挙げますならば、新世界としての米國の驚くべき大發展を指示せねばなりません。

**四、米國獨立百五十年** 巡禮紀行のローマンスによつて米國の歴史が始まつてから三百餘年になります。その後十三州の民は一六八八年に二十萬人であつたのが、一七一四年には三十七萬五千人となり、一七五六年には百三十萬人以上となりました。昨一九二六年七月四日は、實に米國獨立宣言百五十年の記念日でありましたが、獨立當時の一七七六年には約三百萬の人口となつて居りました。つまりこの約三百萬の民がワシントンに率ゐられて母國イギリスに叛逆し、フィラデルフィヤに自由の鐘を撞き鳴らして、雄々しくも獨立を宣言した次第であります。

人は皆出生に於て平等なり、而して造物主より生命と自由と幸福とを享有すべき權利を有すといふ宣言書が如何に米人の血を沸かせたでせうか。然かもこの獨立戦争は非常な苦戦でありました。一切の武器となり得る物を持ち出し老弱男女を擧げて獨立の爲めに鮮血を濺いだのであります。當時イギリスと相争ふてゐたフランスの來り援くるに及び、遂にイギリス軍を破つて獨立の目的を達成することが出来ました。一八八三年といふ年を如何にして米國民は忘れることが出来ませう。この年こそイギリスが我を折つて米國の獨立を承認した年であります。英米兩國はその後も久しく相和することが出来ませんでした。イギリスから言へば、其の植民の獨立に對して好い氣持のしなかつたことは當然であります。

**五、米國の太平洋進出** 然かも獨立を得た米國は、無人の曠野を行くが如く頗る無遠慮に伸びて行きました。獨立當時の十三州は一八〇三年フランスからルイジアナを、一八一九年スペインからフロリダを買収するに及びて今日の三十九州が出来ました。ちやうどこの時ヨーロッパ諸國が新大陸に干渉し來らんとする氣配がありましたから、一八二三年夫の有名なるモンロー主義を宣布し、絶對にヨーロッパ干渉を排しました。かくて米國はアレガニーを越え、ロッキーを亘つて一八四六年太平洋の浪洗ふカリフォルニアに進出し、遂に今日の四十八州を成すに至つたのであります。そののみでは更に満足せず、進んで太平洋中に羽翼を伸ばして、一八九八年にはハワイ、グア



ム、ヒリッピンを占領し、一八九九年にはサモアを獲得し、今やハワイを中心として一大連城を築き上ぐることとなりました。其の規模の雄大なる點に於て、其の爲す所の豪放なる點に於て、其の傲慢にして而かも無邪氣なる點に於て、其の大風呂敷を擴ぐるも緻密ならざる點に於て米國は實に豊臣秀吉と比較さるべきであります。かくの如く世界歴史が順序を轉倒して、イギリスといふ徳川家康の次に米國といふ豊臣秀吉を齎らし來つたのは好個の皮肉であります。そは兎に角米國は今や太平洋の眞只中に大阪城を築きつゝあるのであります。

**六、米國の人口増加** 米國の人口はこの百五十年間に驚くべき増加を見ました。先達て米國々勢調査局で發表した人口豫定數は、昨年七月で米本國の人口一億一千七百萬に達すとあります。之に屬領を合せて米國の總人口一億三千萬は動かないところでありました。つまり米國は百五十年間に人口が四十倍したのであります。而してかくの如き多數の増加は、ヨーロッパ諸國から移民の殺到したことが有力なる原因であります。一八五〇年より一八九〇年に至る約半世紀間に、ヨーロッパ人のヨーロッパ以外に移住したる者二千五百萬、その内殆ど一千六百萬は米國に入國した者であります。ヨーロッパ大戰後にも亦列國はその疲弊を回復せんがために多數の移民を米大陸に送りました。一九一九年には十四萬人、一九二〇年には四十三萬人、一九二二年には八十萬人であります。

**七、米國の最大懊惱** かくの如き各國の移民によつて、米國は雜然たる寄合世帯の國となつて

終ひました。米國には三十六種の人種が住み、二十八種の文字の異つた新聞が發行されて居ります。米國を以て人種の熔鑪と言ひますが、之には未だ火が入つて居らぬため、鐵は鐵、銅は銅、鉛は鉛のまゝで雜然として混在して居るに過ぎませぬ。米國をアングロサクソンの國と言ひますが、サクソン民族は僅に五千二百萬を算するのみであつて、全人口の半分も無いのであります。其他は一千二百萬のドイツ人、同じく黒人、五百萬のアイランド人、三百五十萬のカナダ人、同じくイタリア人、二百八十萬のポーランド人、二百五十萬のロシア人、二百萬のスエーデン人等を算せられます。斯様な風に何等國家としての人種的統一、國民としての血の純一が無かつたならば、米國は將來有事の日に非常なる苦痛を嘗めなければならぬこととなります。これが現今に於ける米國最大の懊惱であります。

**八、黒白相容れぬニグロ** 中にも米國人口の割を占むるニグロ即ち黒人の問題は、全く文字

通り黒白相容れぬ惱ましき問題であります。この黒人は元々米國に發生した者ではありません。彼等の祖先はアフリカ大陸を故郷として、野蠻ではあるが平和な生活を営み來つたものであります。それを白人が大陸を發見して之を開拓する必要上、奴隸として連れて來たのであります。白人の慘虐なる奴隸の部隊が何も知らぬ黒人の部落を襲撃して、或は其の家を焼き、老幼を殺戮し、散々脅迫した揚句、之を捕縛して麻袋の中に詰め込み、アフリカの西海岸より米大陸へと送り出しました。



一四四二年ホルトガル人が奴隷賣買を開始して以来、イギリス、フランス其他ヨーロッパ諸國の奴隷商人の手によつて、米大陸に移された黒人の數は二千萬に上ると言はれて居ります。船に積まれた黒人の半は虐待によつて死んで仕舞ひました。幸に一命を完ふした者も上陸後は直ちにその背に所  
有主の烙印を捺され、鐵鎖を以て身體を縛せられ、牛馬にも劣る待遇の下に酷使せられました。その子孫が今日斯くの如く米國民の一割を占めて居るのであります。リンカーンの奴隷解放後、米國市民の一員となつた黒人も、依然として社會的に差別待遇を受けて居ります。然かも一旦白人の生活と接觸した米國の黒人は、最早故郷アフリカの黒人とは別個のものとなりました。その教育的覺醒と經濟的發展とにより、黒人自ら獨立して、白色人や黄色人と同様の國家を建設したいといふ希望を抱くまでに至りました。ヨーロッパ大戰による民族自決の風潮は、黒人をして何時までも劣等人種たるに甘ぜしめなかつたのであります。

**九、黒人の代表的三傑** 現在米國に在る黒人自身の解放運動には代表的な三個の潮流があります。第一はタスケギー實業學校の創立者故ブーカー・ワシントンの流を汲む黒人自身の教化運動であります。只今はモートンと呼ぶ黒人が校長の職を襲ぎ、黒人の教育を進め、智能を啓發するに引續き非常な努力を致して居ります。第二は黒人進歩國民協會によつて黒人私刑の暴虐を絶叫し、只管白人の反省を促がしつゝあるヂュ・ボア博士の一團であります。米國には今猶黒人の私刑が絶えま



士戰の動運放解人黒  
 士 博 ア ボ ・ ユ デ 左 氏 ント ン シ ワ ・ カ ー プ 故 右 上  
 氏 - レ ー ト ス ・ ド カ イ フ ア ー ム 央 中  
 人 夫 - ベ ー ガ 左 氏 - ベ ー ガ ・ ス カ ー マ 右 下



せぬ。年々罪咎もなく白人の爲めに私刑の惨虐を蒙れる黒人の数は數十名に達して居ります。近來この私刑の数の減少し來つたのは、ヂュ・ボア博士等の盡力與つて大なるものがあります。以上の第一も第二も共に白人に對して協動的であるを免れませぬ。然るにこゝに第三の獨立運動擡頭するに及び、全然白人とは相容れざる一團の出現となりました。夫の黒人アフリカ共和國の建設運動を目的とするマーカス・ガーベールの一派は即ち是であります。ガーベールはジャマイカの孤島に生れた黒人ですが、ヨーロッパ大戦に刺戟せられて黒人の獨立國を故郷アフリカに建設せんことを發願し、その理想の下に歩を進めて居ります。先年或る事件に關し目下五ヶ年の禁錮に處せられて居りますが、年若き夫人が其の不在中の一切を處理して居ります。米國の白人は散々今まで黒人を虐遇して來たため、黒人の覺醒によつてその報復を受けるに至りはしまいかと恐怖に捉はれて居ります。甚しきに至つては、將來の米國は黒人の爲めに取り上げられはせぬかとまで杞憂を抱いて居ります。左様なことは無いにしても黒人問題はたしかに新しき世界の大問題であります。黒人問題に就て詳細を知らんと欲する讀者各位は、拙著『黒人問題』を御覽願ひたいのであります。

**十、秘密結社クー・クラックス・クラン** 米國にはクー・クラックス・クランなる反動的の秘密結社があります。頭文字が三語ともKであるため、三K團とも呼ばれて居ります。サイモン大佐を首領とし、夜半白衣を纏ふた團員が集つて宣誓式を行ひ、「目に見えざる帝國」を建設せんがために

努力するのだといふので、大戦以來世間から注目せられ、又黒人の私刑など直接行動をなして暴はれ回るところから、米國官憲の壓迫を受けつゝ、隱然たる一大勢力を成して居ります。この團體は元來一八六三年リンカーンの奴隸解放當時「黒人が白人の生活の中に入込むことによつて白人の素質が低下するから、之を防遏すべく飽くまでも黒人を壓迫し、以て米國の國粹を維持せねばならぬ」といふ趣意の下に出來たのであります。ヨーロッパ大戦後一層その目的とする範圍が擴大せられ今日では單なる黒人排斥に止まらず、一切のアジヤ人、ユダヤ人を始め、同じ白人であつてもカソリック教に屬するラテン系の人種をも排斥せねばならぬと宣言して居ります。

**十一、新移民法の内容** 然るにこの三K團の綱領とするところと、故意か偶然かピッタリと吻合するのは、一昨々年（一九二四年）實施された米國の新移民法であります。尤もその前即ち一九二二年施行された暫定移民法規によつて、米國は一年の移民數を一九一〇年の國勢調査に基き國別に現はれたる各移民實數の三分たる三十五萬七千八百名に制限したのであります。更に三年後のこの新移民法によつて、十五萬八千名に制限して仕舞つたのであります。この數字は一八九〇年の國勢調査に基き、米國內居住外國人の二分から割出されたものであります。一九二七年以降は一ヶ年十五萬人を限り一九二〇年の國勢調査による在米各國人に按分して割合を作ることになつて居ります。即ち右新移民法による各國移民制限數を調べますと、



	一九二四年以降	一九二七年以降
イギリス (アイルランドを含む)	六二、五七四	九三、四六五
ドイツ	五一、二二七	二〇、〇二八
スエーデン	九、五六一	三、〇七二
ポーランド	五、九八二	四、五三五
ノールウェイ	六、四五三	二、〇五三
ロシア	二、二四八	四、〇〇二
フランス	三、九五四	一、七七二
イタリア	三、八四五	五、七一六
チェック・スロヴァキア	三、〇七三	一、三五九

となり、全體に制限された移民數は何れにしても十五萬人をこゝでありますが、國別によつて増減を生じて來まして、イギリスの如きは一九二四年に六萬二千名に制限されたものが、一九二七年以降九萬三千名までは入國し得ることゝなつたのに反し、ドイツの如きは五萬一千から二萬に減じフランスの如きは三千九百から一千七百に減らされました。フランスは人口減少の國であり乍らも一九二二年には二萬四千名からの移民を米國に送つたのでありまして、如何に大戰の結果本國の經

濟力が衰微したかを語るものであります。更に特筆せねばならぬのは世界の移民國と言はるゝイタリアでありまして、イタリアは年々四十六萬人宛増加する人口の捌場として、現在新大陸に六百五十萬からの移民を送り、米國に對しても一九一四年には二十八萬人、一九二一年には二十二萬人といふ莫大な數字に達して居るのであります。然るに一九二一年の暫定移民法によつて四萬二千名に制限され、一九二四年の新移民法によつて僅に三千八百名といふ少數に制限されて仕舞つたのでありますから、それがたとへ一九二七年以降五千七百名に増加しましても、従前に比較すれば、殆ど禁止されたのも同様であります。イタリアが米國新移民法施行の年に於て五十七國の代表者を集め國際移民會議を開き米國に對して抗議を申込んだのは無理ありませんが、米國は之に對して獨立國は其の獨立を維持せんが爲めには何事でも出來るといふ意味のことを答へ、一向之を取合なかつたのであります。

**十二、ノールデツク米國** かくの如く米國は從來無制限に各國から流入し來つた移民を一年十五萬人といふ數に制限し、人種の整理、換言すれば國民的統一の仕事に取りかゝつたのであります。然かし乍ら建國以來一世紀半も放抛せられてゐた此の仕事を、一朝一夕にして仕遂けるといふことは決して容易の業でありませぬ。況して今更アングロサクソンの血のみを以て、米國々家を固めやうと思つても到底それは困難でありますから、せめて之にドイツ種を始め、北ヨーロッパの諸民族



を打つて一丸とし、將來の大米國を築き上げやうと考へ出しました。その大方針が新移民法にも現はれて、自らラテン系に屬する南ヨーロッパ諸民族に對して嚴重なる制限となりました。北ヨーロッパ人のことをノールデックと申して居りますが、つまりノールデック米國を建設することが米國の理想であると言はねばなりません。

### 十三、ヴェルサイユ條約とワシントン會議

米國は最初大に腰を入れたヴェルサイユ會議が萬事イギリスの好都合に出来上り、殊に國際聯盟が事實に於て大英保全組合と化し去つたとき、之に快からずして、何とかヴェルサイユ條約を遣り直さうと考へました。そこへ幸にもイギリスから海軍制限の相談を持ちかけましたので、渡しに舟と喜んで、遂に夫のワシントン會議を開くことになつたのです。米國がワシントン會議を主宰せしに就ては三大目的を持つて居りました。第一は日英同盟を破棄すること、第二は英國の海軍を米國と同列に引下げること、第三はアジア及び太平洋に於て米國將來の發展の基地を造ることは是であります。然かも此の三ヶ條共完全に成功して、米國はその目的を達することが出来ました。殊に今まで世界第一を以て誇つたイギリスの海軍を、米國と同列に引下けて、各々一〇の比率になし得たことは、米國としては大成功であると共に、イギリスとしては絶對級より比較級に落下した面目ない次第であります。さればとてヨーロッパ大戰に疲勞し、莫大なる債務を米國から負ふてゐるイギリスとしては、この上無駄な海軍擴張の如きに堪

へ得る實力が無かつたのであります。

### 十四、汎米主義と汎米聯盟

米國には大戰以前から汎米主義なるものがあり、カナダを除く北中南米の二十一國を以て經濟的に打つて一丸とし、米國の羽翼の下にその國際的發達を計らうといふのであります。要するに米國の帝國主義であつて、コロンビヤとかチレとか其他諸邦の内には米國に對して餘り快からざる國々もあつたのですが、さればとて表面に立つて堂々抗爭することも出来ず、その儘になつて居りました。然るに前述する通り、米國は今日尙どうしても國際聯盟に加入しないのであつて、寧ろ新大陸は新大陸だけの國際聯盟を組織しやうといふ計畫が持ち上つて居ります。最近ブラジルが國際聯盟を脱退したのも、或は近き將來新たなる汎米國際聯盟を作り出す基になるのではないかと思はれます。何れにしましても米國を中心とする新しい勢力が、古きヨーロッパに對抗して其の頭角を露はし來つたことは、極めて明白なる事實であります。之と共に近時ヨーロッパに於ては、國際聯盟よりも更に一步を進め、各國關稅の障壁を撤退したる汎歐主義の主張がクレーデンホーフ等によつて主張されつゝあるのは注目に値します。

## 第四章 社會主義・民族主義・勞農ロシア



## 一、階級闘争と民族闘争

ヨーロッパ大戦以來、特に著しく世界の各方面に勃興して來た現象は、言ふまでもなく階級闘争と民族闘争とであります。兩者の關係は年を経るに従つて交錯して來ましたけれども、大體に於て階級闘争とは豎の闘争であり、民族闘争とは横の闘争であることには相違ありません。先づ前者の由來から語りますと一七六九年蒸汽機關の發明と共に、ヨーロッパの天地は夫の産業革命時代に入り、茲に近代工業の勃興となりましたが、之が爲めに資本家と労働者との對立關係を生じて、社會主義思想及び運動を見ることとなりました。勿論最初の社會主義思想は、イギリスのロバート・オーエン、フランスのサン・シモン或はフリーエーの如き所謂空想的社會主義者によつて鼓吹されましたが、一八四八年マルクス及びエンゲルスの共產宣言發表せられ、一八六七年より一八九四年にかけてマルクスの大著『資本論』全三卷二千百三十五頁の研究が出版せらるゝに及びて、茲に社會主義の理論が科學的に完成さるゝに至つたのであります。マルクスの學徒であつたロシアのレーニンは、ヨーロッパ大戦を以て之が實行の時機到れるものとし、革命の機運に乗じて、ロシアを其の試験臺に供したものであります。たとへそれが理想通りには行かなかつたとはいへ、地球上最初の社會主義國家を建設し、人類史上に大なる波瀾を洶涌せしめて世界維新の誘導役を擔當したことは顯然たる事實であります。

## 二、ロシアを救つたレーニンの革命

ロシアに何故革命が起つたかを研めることは、極めて

大切であります。こゝにはたゞ簡単に申し上げます。ロシアには百年前から革命の兆がありました。皇帝の専制と人民の暗愚と貧富の懸隔とが何と言つても三大原因であります。ドストエフスキーとかツゲニエフとか、ロシアの小説を読めば、ロシアに流れつゝあつた革命的空氣を察することが出來ます。この革命に與つた者はインテリゲンツィヤ即ち智識階級であります。殊に一九〇五年日露戦争の末期に起りました大革命は危くロマノフ王朝を顛覆せんとしました。此の時ベルリン大學教授であつたルドルフ・マルチンといふ人が、早くもロシア革命とフランス革命とを比較し、ニコラス二世は必ずルイ十六世の運命を見るであらうと豫言して居ります。それから十二年を後くれましたが、ニコラス二世がマルチンの豫言通りの悲惨な目に會つて虐殺されました。ロマノフ王朝が倒れたのは、所謂「過激派」といふレーニン一派が倒したのではなく、王朝自身が賣國奴の軍閥となつたからであります。大戦中ロシアに革命が起つて、ニコラス二世が退位したのは一九一七年三月であつて、世に第一次革命と申しますが、この時出て來たのはケレンスキーであります。ロマノフの宮室を初め顯官將軍の悉くが敵國ドイツと通じ、聯合軍の戦線東ヨーロッパの一角より頼れんとした時、最も氣を揉んだのはイギリスでありました。茲に於てイギリスは莫大な金をケレンスキーに送り、只管その革命を助けて戦勢を盛り回へさうとしました。然かし乍ら戦に倦み疲れたロシアの兵士は、最早ケレンスキーの言ふことなどを聞きませんでした。この勢に乗じて現れたのが前



由すレーニンです。レーニンは一九一七年十月ロシアに歸り直ちに勞兵會の力を以てケレンスキー政府を倒しました。之が第二次革命即ち勞農革命であります。それから今日に至るまで足かけ十年間レーニンの勞農政府もいろ／＼の苦勞を嘗めましたが、その間に段々基礎を固めて参りました。若し大戦當時ロシアに革命が起らず、ロマノフ朝のまゝであつたならば、ロシアは夙うにドイツの領土と化し、ベルリン、バイカル、ブラゴエシチエンスクと言つたやうな新しき三B政策が實現されてあつたでせう。然かし乍らケレンスキーの革命のまゝであつたならば、ドイツに代ふるイギリスの勢が北方アジア全體に延びて、アジア大陸の大部分はイギリス領としての色が塗られてあつたでせう。して見ればレーニンの革命は確かにロシアを救つたものと言ひ得るのであります。

### 三、勞農ロシア建設滿十年

もとよりレーニンは最初この革命がロシアといふ一個の國家を救ひ出すことになるなどは考へて居らなかつたのです。彼はたしかに社會主義による世界革命を企てゝ居りました。ロシアを試験臺に供して成功したならば延て全世界に共產主義の政治を施かうと思つて居りました。然かし乍ら世の中のこととは、直ちに理想通りに行へるものではありません。それからそれへと障害が起るものです。殊にレーニンの唱へた世界革命などいふことは、列國の政治家資本家をして驚駭せしむるに餘りあるものであります。列國はこのロシアを叩き潰さんがために所謂過激派討伐を遣り出しました。東はシベリヤ、北はアルハンゲル、南はアルメニヤ、西は

ポーランドといふ風に四方から兵を出して之を取り囲みましたが、結局其の戦争は無効に終り、三日にして倒れる、三ヶ月にして倒れると言はれた勞農政府は、之が爲めに却て其の内部を固めて行きました。戦争と革命と飢饉との結果、ロシアは八百萬人からの人を失ひましたが、それでも勞農政府を維持し得たことは、善かれ悪しかれ其の理想を持して之を遂行せんとする雄志があつたからであります。同時にロシアの有する廣大なる領土によつて自給自足に耐へ得たことにも由ります。レーニンはマルクスの理論を持して實際政治の局に當るに従ひ、共產主義をそのまゝ實行することの困難を覺りました。その結果現はれ來つたのが夫の一九二一年三月の新經濟政策であります。新經濟政策はその頭文字を合せてネツプ(NEP)と申しますが、之に依つて或る程度の私有主義を認め、農民の所得も豊かになつたので、勃然として生色が加はるに至りました。レーニンは其の翌々年一九二四年を以て逝去しましたが、ロシアは彼の志を承いだ勞農政治家によつて經營せられ、今年即ち一九二七年十一月になりますと、勞農革命滿十年を迎へるのであります。

### 四、世界の三大革命家

ヨーロッパ大戦は世界の大地震でありました。この大地震によつて壯麗と堅牢とを誇つた幾多の建物が、脆くも倒壊し去りました。ロマノフ王朝や、ホーヘンツォルレン王家の如きはその代表的なものであります。その代り從來世界の下積みとなつてゐた方面、壓迫せられつゝあつた方面の地底から、種々なる新しき人物を出しました。ロシアのレーニン、トロツ



キー、インドのガンデ、トルコのケマル・パシヤ、エジプトのザグルル・パシヤ、ベルシヤのリザ・カン、イタリーのムツソリニ、アラビヤのイヴン・サウド、アイルランドのデ・ヴァレラ、黒人のマールカス・ガーベール等思想も違ひ、人物も違ひ、其の立つ處も違つては居りますが、新しき世界に燦然たる光輝を放つた明星であることに於ては則ち一であります。中にもレーニン、ガンデ、ケマル・パシヤは世界の三大革命家と稱せられて居ります。ケマル・パシヤはトルコの愛國者であります。それ故彼の行つたトルコ革命は徹頭徹尾愛國の精神が流れて居ります。ガンデは寧ろ宗教家であり、彼の唱へました「真理の把持」は、高貴なる人類愛そのものであります。レーニンに至つては所謂愛國者ではありません。勿論宗教の如きは「宗教は人民の阿片である」と言つて之を排斥して居ります。さればとて彼を自するに非愛國者、唯物主義者と做すは皮相の觀も甚だしいものであります。彼は先づ「働かざる者は食ふべからず」と言つて、遊んで食つてゐた不都合な人間をロシヤから無くしました。次で「各人にパンあるまで各人に菓子あるべからず」と言つて、個人の我儘勝手を禁じました。この簡單なる二つの標語によつてレーニンの人物を髣髴することが出来ます。彼は多年の漂浪と辛酸と革命の苦勞との爲めに健康を害し、一九二四年一月五十四歳を以てこの世から逝くなりましたが、今は全ロシヤを通じてキリストの肖像に代ふるに彼の肖像が飾られてある始末です。

### 五、第三インターナショナルとは何か　ロマノフ時代、ロシヤの革命黨と見るべきは社會革命黨と社會民主黨との二つがありました。

社會革命黨はチエルノフの思想を中心とし、農民間に勢力の根柢を置いて居りましたが、一九一七年三月の第一次革命に参加したのは此の黨派であつて、ケレンスキー、チヘイゼ等がそれであります。社會民主黨の方は一八九三年ミンスクに於て結社し一九〇六年ストックホルムの大會に於て多數派と少數派とに分裂しました。多數派をロシヤ語でボルセウイキといひ、レーニンが之を率ゐ、少數派をメンセウイキといひ、ブレハーノフが之を率ゐました。第二次革命によつてロシヤの政權を握つたのは即ちこの社會民主黨の多數派でありまして之が今日のロシヤ共産黨の前身を成して居ります。ボルセウイキが天下を取つて唱へたのはプロレタリアの世界革命であり、之を宣傳實行する機關として一九一九年三月、モウクワに第三インターナショナルを成立しました。第三インターナショナルとは第一、第二に次で成立したからであります。即ち第一インターナショナルは一八六四年ロンドンに催されましたが、一八七二年ヘーグに於てマルクス派とバクニン派とに分裂して自然消滅しました。第二インターナショナルは一八八九一年フランス革命百年祭を記念としてパリに開かれ、やつと引續いて居りましたが一九一四年ヨーロッパ大戰開始と共に、主戦論と非戦論とに分裂し、之れ亦自然消滅に歸しました。第三インターナショナルが出来てから、それを過激とした社會主義者が二年インターナショナルを組織し、又そ



れを生温るいとした者が第四インターナショナルを組織しましたが、それ等は一向振はず、今は第三インターナショナルのみが、其の後モスクワに出来た赤色職業組合と共に、所謂世界赤化の本元の如く勢力を張つて居ります。勿論第三インターナショナルの全部がロシア共産黨である譯ではありませぬが、其の大部分の勢力を占めて居ることは事實であります。

#### 六、勞農ロシアの組織

レーニン等はロシア革命の事成るや、その世界に對する宣傳を第三イ

ンターナショナルの任務とし、自分達はソヴェート政府の完成に急ぎました。ソヴェートとは會議といふことを意味し、社會主義に據つて樹てた新國家の政治を議する機關を指すのであります。世間に通常勞農ロシアと呼びますが、その本名は社會主義ソヴェート共和國聯邦といふのであつて、ロシア文字のエス・エス・エル (СССР) を以て表示します。この聯邦組織は一九二三年七月第二回ソヴェート大會に於て決定せし憲法で定められましたが、斯くその國名にロシアの文字が無いのは、後日に至つて全世界に社會主義共和國を建てんとする目的を示したものであります。而して現在この聯邦に加盟してゐる國は、ロシア社會主義聯邦共和國、ウクライナ社會主義共和國、白ロシア社會主義共和國、カウカーズ社會主義聯邦共和國、トルコマン社會主義共和國及びウズベク社會主義共和國の六國であります。其の他多くの共和國が出来て居りますが、それはロシアとカウカーズとの兩國に附屬し、シベリヤの如き地方はロシア社會主義聯邦共和國に直屬して居るのであります。

ります。

#### 七、階級闘争より民族主義へ

かくの如き聯邦の分け方は、民族主義によつて居るのであります。

ロシアは勞農革命の最初、民族自決主義によつてバルチック諸州を切り離しましたが、其の後聯邦を組織するに際しても自國の領土を民族主義に基いて分け、各々共和國を建設せしめました。次にその外交方針の如きも、階級闘争の方は第三インターナショナルに任せ、勞農政府としては寧ろ民族闘争の方に力を注ぐに至りました。蓋しロシアの目指せる資本主義の大國は何と言つてもイギリスであります。イギリスが世界に強大の勢力を占めてゐるのは、アジア及アフリカに於ける有色諸民族を搾取し壓迫せるからであつて、若し一朝にして此等の植民地或は領土を失ふならば大英帝國は根本的に覆らざるを得ませぬ。故にロシアがその倒英の大目的を達すべくアジア各邦の民族的獨立運動を出来るだけ援助し、之に由て革命の機運を一日も早く醸成せんと焦つてゐるのは疑無き事實であります。トルコのケマル・パシヤがイギリスの手先であるギリシヤの大軍をスマイルナ港外に放逐し、空前の大勝を得て共和國建設の目的を大成したのも、背後にロシアがあつたことは隠れなき事實であり、ベルシヤのリザ・カンが一九二一年テヘランに於けるイギリスの勢力を一掃し、今日のベルシヤ國民主義を樹立し得る基を成したのも、背後に於けるロシアの援助與つて力があるのであります。ロシアが支那の國民運動、革命運動に同情し、現に南方に於ける國民革命軍を



支持して、英國の勢力を覆さんと企てつゝあることは顯著なる事實であります。

**八、ロシアは東洋の新雄邦**　ロシアは大戦前一億八千萬の人口を有つて居りました。今日では一億四千萬に減つて居ります。それは前申すバルチック諸州やポーランドを切離し、又戦争と革命と飢饉とによつて人員が減少したからであります。此の内一億はヨーロッパ・ロシアに住み、他の四千萬は中央アジア及びシベリヤに居ります。此の人口の割合から言へばロシアは確かにヨーロッパのロシアであります。然かし乍ら將來のロシアの進路を考へますと、寧ろアジアのロシア即ち東洋の新雄邦としてのロシアになりつゝあります。

ロシアは夙とにヨーロッパ、アジア兩大陸に跨つて、ヤナス即ち「兩面の神」と呼ばれて居りました。今回の大戦によつて革命となり、その火はドイツに延焼して、一時は全ヨーロッパをも焼き盡くさうとする勢を示しましたが、聯合國の後援によつてポーランドなる獨立國が出来上り、ドイツとの接近を妨げられた上、一昨年の暮即ち一九二五年十月にはロカルノ條約が調印せられ、ドイツが聯合側に浚はれて行つたので最早ヨーロッパへの進路を斷たれたのも同然であります。尤も其の後昨年の春になつてドイツとの間に中立條約を締結し、ドイツは必しも聯合國の味方でないといふ素振りを示めしましたが、之とても積極的に攻守同盟を結んでヨーロッパの天地を席捲するといふのでなく、又現在のロシアにそんなことも出来ませぬから、進路を専ら東方に取り、ガラ明きの

シベリヤに向つて經營の全力を注ぐといふことは極めて當然のこと、思はれます。一昨年大阪朝日新聞社の訪歐飛行機がモスクワを訪問したとき、ロシアの外務委員長チエリンが歡迎の辭を述べ「日本は東洋の古國である。ロシアは東洋の新國である、この新舊兩雄邦が飛行機の訪問によつて一層親交を重ねることは悦ばしい」と言つたのは、必しも一場の御世辭として聞くべきではありません。この挨拶の中には勞農政治家の胸中に劃かれたる理想が、故意か偶然か知らぬがよく露はれて居ります。

### 九、シベリヤと北滿洲

ロシアが廣大無邊なるシベリヤを獲得したのは、今から三百五十年前エルマクの遠征を最初としますが、近世に至つては一八四七年夫の有名なるムラヴィエフ將軍が東部シベリヤ總督に任ぜられ、東方經營に當てからのことで、其の後一八五八年の愛琿條約、一八六〇年の北京條約により清國の領土であつた滿洲を占領し、今日のアムール州及び沿海洲を置いたものであります。勞農ロシアは最初軍國主義、侵略主義を非難しましたが、この軍國主義、侵略主義によつてロマノフ・ロシアが獲得したシベリヤを、今日は其の東方發展の土地として、經營を急いで居ります。ロシアを東西に貫くシベリヤ鐵道の複線工事は一九一四年に完成しましたが、革命後の今日着々復舊に努力し、今や歐亞兩大陸を連絡する萬國急行列車が運轉されんとして居ります。ロシアは此のシベリヤ鐵道を中心として、益々農林鑛山等の諸業に努め、又莫大なる費用を投じて今



後十年間に百萬の移民を極東に植えんとする計畫を立てました。それと同時に北滿洲の經營にも關心するところがあつて、東支鐵道の榮養線たる幾多の枝線敷設を計畫し、北滿洲の物資を東方ウラジオストツクの港に運び、米國との國交恢復の曉を待つて、來るべき太平洋の舞臺に立たんとする準備に怠りありません。

**十、外蒙古と烏梁海** ロシヤはアジヤに於ては東方の滿洲から、西方の新疆地方に至るまで延々四千哩に亘つて支那と國境を接して居ります。今やこの内特にロシヤの勢力の侵潤しつつある地方は外蒙古と其の西方に在る烏梁海とであります。外蒙古は今や事實から言つて決して支那の領土ではありません。支那政府の命令などは更に利かず、名稱すら堂々たる外蒙古國民共和國であります。外蒙古は政治組織に於てソヴェート制度を採用し、軍事、教育、産業、經濟のすべて亦悉く勞農式を採用して居ります。首都庫倫の名稱すら、「赤色英雄の都」と改めました。外蒙古の西サヤン山脈の南、烏梁海の地方にも亦國民共和國が建設されソヴェート式の政治が行はれつつあります。外蒙古は頻りに烏梁海との合同を希望して居りますが、烏梁海の方で承知せず、獨自一個の國家を建て居ります。其の他科布多、伊犁、新疆等の國境にもロシヤの勢力は日に増進して居ります。

**十一、赤化宣傳などが何恐ろしい** 世の中にはロシヤの所謂赤化宣傳なるものに、やかましく氣を揉む人があります。然かしそんなものが何故恐ろしいのです。「赤」と聞いて河馬の如く目の



國人がカムチャツカ半島に於てペトロパブロフ斯克を創立せしは一七三二年なるも、ムラウエフ將軍が此處を獨逸大將隊の根據地とするは是がに後なる一八四九年なり。今、人口僅に一千二百の小部なれども其名天下に傳す。  
一七八八年(寛政十年) 本冬利爾先生(一七四三—一八二二年)は「西域傳記」を著し「赤化」カムチツカに關して大體詳述に及べし」と稱す。實にムラウエフは先づ一七五十年の以前なり。誰か此の山水標榜の細部を見、先人經營の跡を思はざらんや。



色まで變へる人々は、それ自身の頭腦がどうかして居るのであります。我に確固たる信念にあらば、天下何者をも恐るべきものは無いのであります。事實に於てレーニンの革命が、ロシアといふ國家の革命になつた時、第三インターナショナルはロシアの宿借りとなり了りました。第三インターナショナルも大國ロシアに寄生してこそ、初めてあれほど世界を脅かすことが出来たのであります。然かし乍ら最早我々は、ロシアといふ國家が第三インターナショナルを宣傳ビラとして世界に撒布しつゝある正體を看破しなければなりません。ロシアといふ國家が建て直れば建て直るほど、口先や筆先だけの赤化宣傳は影を潜めて來るでせう。同時に工場を興し、鐵道を敷設し、飛行機を製造し、海軍を再興して、實力を以て世界に臨む時が來るでありませう。革命が成功すれば必ずや其餘勢を以て外に延び行くことは東西古今の史乘が之を證明して居ります。赤化宣傳などは何等恐るべきではないが、若し果して他に畏るべきものありとせばそれはロシアが現實に東洋の天地に甦らんとすることです。「畏るゝ」の文字が違ひます。畏の字は畏敬する云々の時にも使用します。

**十二、ユダヤ陰謀論などは尙更である**　ロシアの赤化恐怖論に類似若くは同類項の人達と見るべきは、夫のユダヤ陰謀論者であります。論者の説によると、世界漂泊者であるユダヤ人が世界顛覆の大陰謀を企圖し、秘密結社を組織して到るところに潜入しつゝありといふのであります。ロシアの革命はユダヤ人陰謀の結果である、ドイツの革命も同様である、世界の帝王國の大部分は覆

つた。彼等の恐るべき計畫が今や我日本帝國を狙ひつゝあると全部をユダヤ人のせいと歸して眞としかに説くのであります。元來ユダヤ人は二千年前バレスタインに於ける國を喪ひ、爾後世界の漂泊民となつてヨーロッパ諸國の中に入り込み、到るところから嫌惡され迫害されて來ましたが殊にロシアに於ける其の壓迫は言語に絶するものであります。されば革命以來解放されたるユダヤ人がロシア政府の中に入つて行つたことは何の不思議もありません。それを何の關係もない日本人がヨーロッパ人の尻馬に乗つてユダヤ人陰謀論を説き回るが如きは不見識極まる話であります。

## 第五章　アジア及びアフリカ復興と支那問題

**一、百五十年間のアジア**　現代世界の三大舞臺となつたヨーロッパ、アメリカ、アジアの近世史は何れも百五十年ほど以前から開始されて居ります。前にも述べた通りヨーロッパは一七六九年ゼームス・ワットの蒸汽機關發明から、一九一九年ヴルサイユ條約まで百五十年間、機械の力を以て世界を征服し、其處から搾取した富を以て強大を誇るやうになりました。アメリカ合衆國は一七七六年を以て獨立を宣言し、一九二六年の昨年に至るまで百五十年間、モンロー主義を布いてヨーロッパに干渉せず又干渉せしめず、南北兩米を其の羽翼に包んで今日の發達を來たすやうに

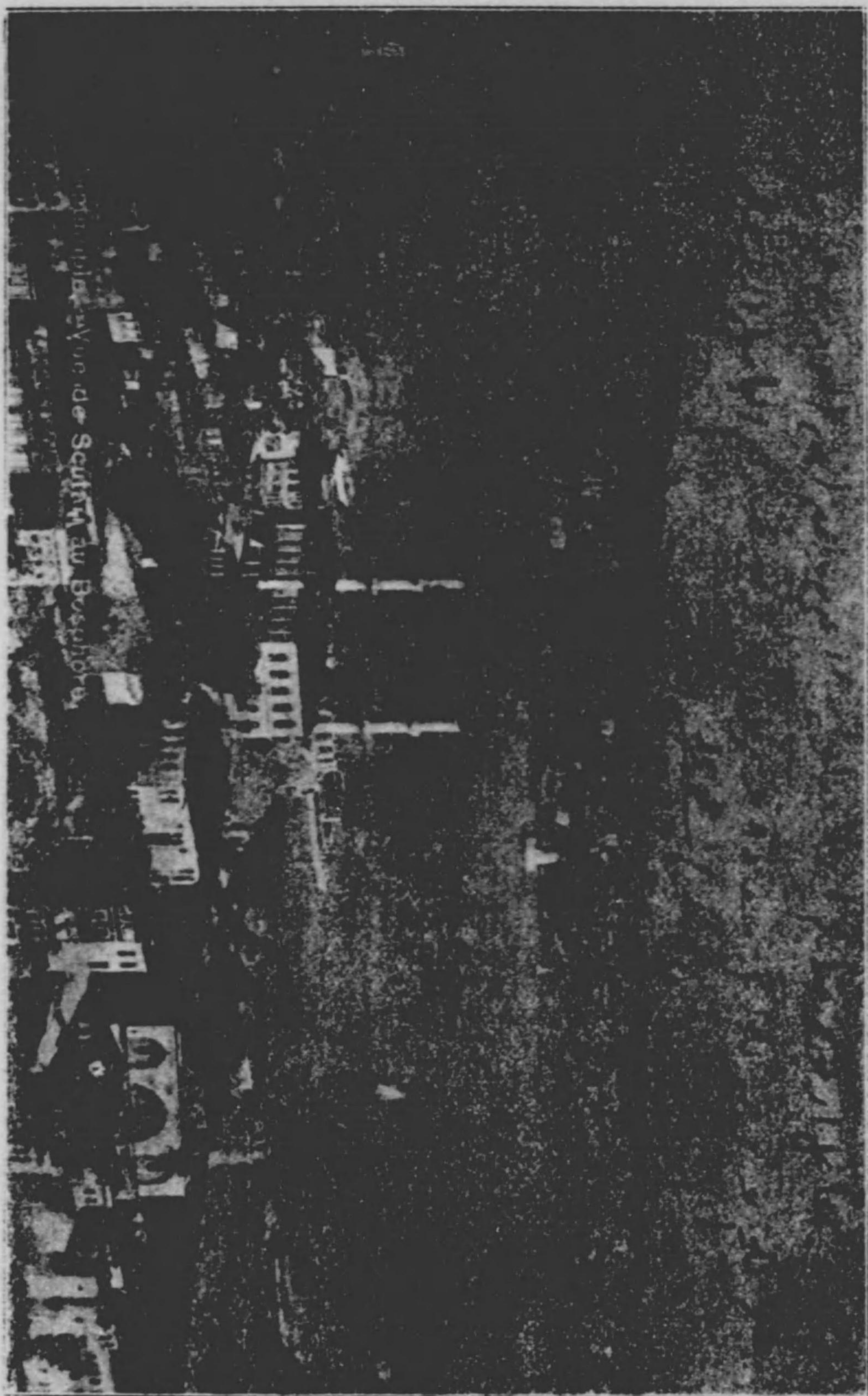


なりました。然るに此の百五十年間のアジヤは如何であつたかと言へば、一七五七年ブラシーの戦に於てインドがイギリスの手に歸して以來、主として南なるイギリスと北なるロシアとに挾撃され、晨に夕に蠶食せられ、餓虎の如き列國の爲め或は獨立を喪ひ、或は保護國となり、一九〇五年の日露戦争に至るまで百四十八年の間は、ヨーロッパ、アメリカに正反對の悲しむべき衰亡の極に在りました。アジヤが覺醒の最初をなしたのは實に日露戦争でありまして、此の戦争に刺戟發憤してアジヤ人も同じく人類である以上、奮發次第で白人に劣るものでないといふ信念を抱くに至つたのであります。トルコや支那の革命運動、インドやエジプトの獨立運動はこれから起るに至りました。この點から見まして日露戦争の有する世界史的意義は極めて重大であります。

## 二、アジヤ分割が復興に代つた

ヨーロッパ人は十八世紀中に南北アメリカを完全に領有しま

した。十九世紀中にアフリカを分割しました。彼等は二十世紀の末年、即ち二〇〇〇年までにはアジヤの分割を終らうとする計畫を立てました。ヨーロッパ人の所謂アジヤ問題の解決とは、このアジヤ分割の意味に外ならなかつたのであります。然るにヨーロッパ大戦を分水嶺として、アジヤ分割がアジヤ復興に代つて來たことは最も重大なる世界的現象であります。勿論之は戦争のためヨーロッパの力が弱つて來たにも由ります。然かし何としてもアジヤ自身が、下敷きから跳ね返さんとする力を出して來たのが主たる原因であります。今日復興の氣はエジプトにも、トルコにも、ペル



野波靜雄氏 (野波) ノーバニスマ門關のアジヤ復興

國上の文字はチエニス、志士、マン、アリの族の………は貴下に於て制民族の風  
の精神を具出し候。是は貴下に會ひ得たるを誠心喜ぶ者に候。是は貴下の偉南と譽とを  
承なるアラフに斯るご共、同族及び同族族に貴下が將來も皆同類を賜、給は心とを  
切望する者に候。(原文)



シヤにも、アフガニスタンにも、サイアムにも、到るところに漲つて居ります。ヒリツピンも安南も亦昔しのやうではありませぬ。

**三、復興の第一線はトルコ** アジヤ復興の第一線に立つて、光彩ある活動を示してゐるのはトルコであります。トルコは多年アジヤの西門を護り、西方から吹き付けて来るヨーロッパの暴風を直接防ぎ戦つて居りましたが、ヨーロッパ大戦にはドイツ側に立ち、聯合國を相手として戦ひました結果、一九二〇年八月セーヴル條約によつて屈辱的講和を結び、手足をもぎ取られて胴體ばかりの蟹のやうな、身動きすら出来ぬ亡國となり了りました。かゝる母國の状態に憤然として驟起しアンゴラの孤壘にトルコ國民政府を組織して、聯合國に對する勇敢なる戦を挑むだのはケマル・パシヤであります。ケマルは先づスミルナに據れるギリシヤ軍を破り、勢に乗じて國內を統一し、一九二二年十一月聯合國の傀儡となれる皇帝を廢位し、翌年七月遂に列國を相手に講和談判を遣り直し、ローサンヌ條約の締結によつてセーヴル條約に喪失した廣大なる領土を回復し、茲にトルコ共和國を建成すると共に、十月大統領に選ばれました。ケマルは一八八〇年の生れですから、今年未だ四十八歳の壯年です。トルコが今日各方面に於ける改革は、恰かも我が國の明治維新を思ひ起さざるを得ませぬ。一九二五年の暮、ロシヤと條約を締結したとき、トルコの代表者が演説して「世界には今四個の獨立國しか無い。第一はイギリス、第二は米國、第三はロシヤ、而して第四は我が

トルコである。この内の新しき二國である露土の間に條約が成立したことは喜ばしい」と述べてゐるのは、躍々たるトルコの雄心烈志を證明するに餘りあります。世界に獨立國は四個しか無いと言ふ。日本は果して何處に在るのです。

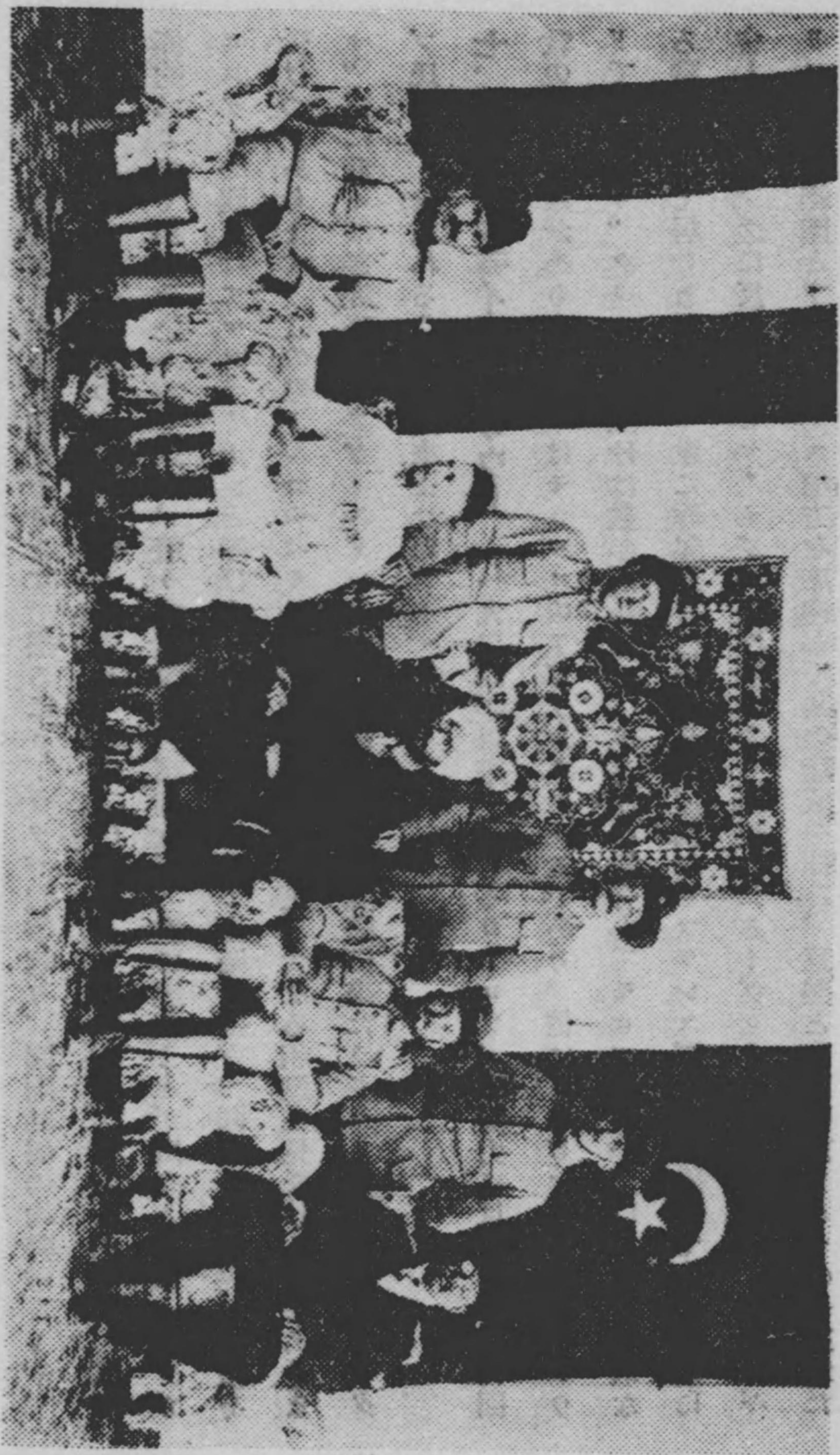
**四、エジプトも亦甦つた** エジプトはスエズ運河の實權がイギリスの手に移つて以來、イギリスの勢力範圍に落ちました。アラビイ・パシヤの獨立運動や、ムスタファ・カメル・パシヤの國民運動もその目的を達するまでに至らず、ヨーロッパ戦争が始まつてから、イギリスは却てエジプト保護國の宣言をしました。此の時イギリスは戦後エジプトの獨立を約束したのであります。然るに大戦が濟んでからも一向其の約束を實行する氣配が無かつたので、遂に老雄ザグルル・パシヤに率ゐらるゝ獨立運動が疾風の如く全エジプトに起りました。これほどで無いと見縊つてゐたイギリスも實際を見て事態容易ならざるを覺り、遂に一九二二年二月其の獨立を布告しました。但しスエズ運河はイギリスに取り、本國とインドとを連絡する關門でありますから手離さうとは致しませぬ。エジプトは獨立を得たが眞の獨立はこれからであります。多年追放と牢獄との生活を送つたザグルル・パシヤは、エジプト國民の父として迎へられ、今は立憲的手段によつて完全なる獨立の域に達せんと努力して居ります。

**五、ベルシヤも亦トルコを追つた** ベルシヤも亦トルコの後を追ふて、國家の革命と獨立と



を全ふすることが出来ました。ベルシヤは一九〇七年英露協約により、北方はロシア、南方はイギリスの勢力範囲に分割せられ、たゞ中央の一部のみが緩衝地帯として残されたのでありますが、ヨーロッパ戦争が始まるやドイツはこのベルシヤを以てインド侵略の策源地とし、茲に三國勢力の複雑なる関係を見るに至りました。其の後ドイツは戦敗によつて撤退し、ロシアも革命以來ベルシヤに對して好意を表し、國民運動を援くるに至りましたが、獨りイギリスのみは依然として昔の儘の壓迫政策を取つて居りましたので、ベルシヤ・コサツクの隊長リザ・カンは一九二二年二月奮然起つてクーデ・ターを行ひ、親英内閣を倒壊し、イギリスの勢力を首都テヘランから驅逐して漸くベルシヤ國民主義の大本を樹立することが出来ました。かくてリザ・カンは陸軍大臣となり、南方モハメラ地方の叛徒を平け、名聲隆々として國民の輿望を集むるに至り、一九二五年十月議會は多數を以てカジャール王朝の廢位を可決し、次で十二月リザ・カンを新バラヴィ王朝の國王として推戴することゝなりました。今やベルシヤは此の新國王の治政下、着々として國內の改造を行ひ、隣邦トルゴと相應じて西南アジアに蔚然たる復興アジアの氣を醸成しつゝあります。

**六、アフガンも亦復興の氣に充つ**　ベルシヤの東隣アフガニスタンにも亦、今や生々復興の氣が充ちて居ります。アフガニスタンはロシア領中央アジアと、インドとの間に介在する山國であつて、古來インドに侵入する通路に當つた關係上、イギリスは多年アフガニスタンを保護國として



歐大洲中戰密查を携へて伯林ヨリアフガニスタンに前中列(志士)



インドを防衛し來り、ロシアとの角逐は常にこの境上に於て行はれました。北なるクシクとテルマツツとはロシアよりアフガニスタンに入る關門であつて、南なるクエツタとベシヤワルとはイギリスがインド地方よりする關門であります。然るにヨーロッパ戦争起り、國際關係の均勢破るゝや、アフガニスタンは多年望める獨立を得んがため、一九二〇年イギリスに對して宣戰を布告し、講和條約によつて獨立を全ふして以來、着々國運振興、諸制改革の道に進むことが出來ました。アフガニスタンの現王はアマヌラ・カンと呼ばれますが、年齒壯にして雄圖を抱き、國民より全幅の信頼を受けつゝあります。この點トルコやペルシヤの廢位された國王と大なる相違を見受けるのであります。更に我々は幾度びかアフガニスタンからの使命を帯びて我國に來たラジャ・モヘンドラ・プラタプ氏のことを忘れることが出來ませぬ。

**七、沙漠の王者イヴン・サウド** 一九二四年以來、著しくヨーロッパの勢力に反抗し來つた回教の新二英雄があります。一はモロッコのアブデル・クリムであり、他はアラビヤのイヴン・サウドであります。クリムの旗上げは數年前に起り、リフ族を糾合してモロッコの一角に久しく勇敢なる戰を續けて居りましたが、遂に昨年五月二十六日武運拙なくフランス軍の前に降伏するの悲運に會しました。之に反しアラビヤ・ネジドの沙漠中より蹴起したるイヴン・サウドは、瞬く間にイギリスの勢力範圍とするヘチアス地方を席捲して其の猛威を揮ひ、巨然として西南アジャの一王者たる觀を呈して居ります。熱帯にして食料飲水に不足する此の地方の討伐などは、イギリスとしても到底不可能でありますから、出で、スエズ運河の存立を脅かすが如き舉に出でざる限り、その儘放擲して置くのでありませうが、これ丈の事實を見ても今やアジャ人によつて白人の鼎の輕重の間はれつゝあることが判ります。又チュニスにはマホメット・アリと呼ぶ青年志士があり、一九二五年其の獨立を計畫したといふ廉を以て十年間國外に放逐されましたが、今は何處かの回教國の同志の間を訪問してゐるであらうと思ひます。世界はかゝる無名の英雄の出現によつて、それからそれへと新しき歴史を書き貽して行きます。

**八、ヨーロッパ列國の支那侵略** 私は餘りに多く西南アジャ及びアフリカの有色人物興を述べ過ぎましたから、これより方面を轉じて東方アジャに移ります。インドのことも前に一言しましたから茲には省略して支那問題を申します。支那は尨大なる國土を有して多年列國から侵略されて來ました。殊に三國干渉後のドイツとロシアとが謀めし合せて膠州灣と旅順大連を取つて以來、イギリスが威海衛を占領し、フランスが廣州灣を收めた當時の如き、最も支那の積弱を天下に曝露した次第であります。アジャ問題の解決とはアジャの分割を意味すると同じく、支那問題の解決とは支那の分割を意味するものであります。この形勢は、支那に革命が起つて清朝倒れ、中華民國となつてからも依然として繼續しました。支那に於ける鐵道利權の獲得競争は、自ら列國の勢力範圍



なるものを決定しました。列國は夫々の獲得したる鐵道を中心として、政治的經濟的に深い根柢を下ろし、以て他日支那分割の日に最後の利益を獲得せんと焦せりつゝあつたのであります。

### 九、アジア横斷四大鐵道

この機會に於てアジアを横斷しヨーロッパ及びアフリカに連絡する

四大鐵道のことを述べて置きます。最も北を走る線はいふまでもなく既成線シベリヤ鐵道であります。又アジアの最南岸を縫うて走らんとするものは即ちイギリスの三〇連絡線の内なるカイロとカスカッタとを結び付けんとするもので、其の半分は出來上つて居ります。此の線は更に東に延長して支那雲南省より揚子江頭の沙市に出で、支那の中腹に抜けんとするものであります。以上のシベリヤ鐵道とアジア南岸線との間に介在して二本の豫定線があります。即ち其一本は現に外蒙古と勞農ロシアとの手にて計畫されつゝあるもので、北京、張家口、庫倫を結んで西に折れ、烏里雅蘇臺科布多を経て中央アジアのセミパラチンスタクに出で、それから裏海或はモスクワに連絡せんとするもの、他の一本は江蘇省海州より西安、蘭州、肅州を経て、哈密、伊犁を結び、中央アジアのタシケンドに出で、テヘラン、バグダードを過ぎてスタンブール或はカイロに連絡せんとするもの、世に海蘭鐵道の名を以て聞えて居り、支那では隴海鐵道と申して居ります。此等の横斷諸鐵道は何れ十數年内に完成することゝならうと思ひます。

### 十、覺醒しつゝある支那

支那は一八四二年阿片問題によつて香港をイギリスに奪はれて以來

ヨーロッパ大戰に至るまでの八十年間、百二十以上の國際條約締結を餘義なくせられ、身動きもならぬほど手足を縛し付けられました。支那の有する三千哩の海岸線中、列國の承認なくして一隻たりとも自國の汽船を横付けることが出來なかつたのであります。然るに列國はヨーロッパ大戰以來支那に加へた壓迫の手を緩めると共に、支那自身の覺醒による形勢の轉換も亦大分著しく注目されるに至りました。ワシントン會議に於て列國が支那の保護と其の發達とを議し合つたのも形勢の轉換を示すものであります。一九二五年より一九二六年に引續ける關稅會議、或は法權回復會議に於て、日本が過去の苦き經驗を回想し、率先して支那に同情を有つたことは新支那と日本との提携を示す第一歩として慶賀すべき出來事であります。

### 十一、二様の支那觀察

ワシントン會議に於てフランス全權から「支那とは何ぞや」との質問

が放たれました。此の意味は現在の支那が果して國家らしき體様を整へてゐるかといふことにあつたと存じます。然り、表面のみを見れば現在の支那には北京、廣東の兩政府があり、北京は列國の承認せる民國の政府には相違ありませんが、政争に亞ぐに政争を以てし、張作霖、吳佩孚等の軍閥の爲めに、恣に操縦せられて、晨に夕を測られぬやうな不安定な狀態を繼續して参りました。此の點から觀察して「支那は何時まで經つても到底改造されるやうな見込は無い。革命黨など、言つても矢張り軍閥同様私利私慾を圖る連中である。結局列國の厄介になつて、大きな圖體を白人の前に



横へることにならう」と觀察する悲觀論者があります。之に反して「イヤ左様ではない、支那は今日でこそ軍閥相争ひ、政客は射利を専らにし、到底復活の見込が無いやうであるが、最早彼等の峠も見えて来た。支那の底を流れつゝある新勢力の渦きによつて、必ずや見違へるばかりの立派な國家にならう」と觀察する樂觀論者があります。この兩様の觀察は、十數年前の革命以來、列國人士の間に絶へず争はれつゝあつたものであります。

## 十二、新支那の渦を見よ

國家の興亡は一朝夕の間に来るものではありません。興るや少くと

も日本の如く或はドイツの如く五十年不撓不屈の努力を要します。亡ぶや一朝にして煉瓦を壊はすが如く見えますが、是亦實は由來するところ久しいのであります。今から支那を樂觀するのは早計であるかも知れませぬが、支那は既にドン底にまで行つたと思はれます。而して其のドン底には矢張り新しい大きな流の渦きつゝあることを肯定せずには居られませぬ。然らばその渦きとは何であるか。民族的自由と國家的獨立とを執望しつゝある民衆の要求であります。この要求は軍閥打破の運動となり、國家解放運動となり、或は社會革命の運動となり、種々異つた形になつて現はれて居ますが、一貫せる精神には變りがありません。この大きな潮流こそ腐敗墮落の極に達せる官僚軍閥の泥濘を洗ひ落として、新支那を築き上ぐる根本の力となるべきものであります。蔣介石氏を中心とする國民革命軍の異常な成功は、確かにこの潮流に乗てゐる結果であります。若し夫れ支那の混

亂に乗じてロシア赤化の勢力が浸潤し盡くすであらうと傲すが如きは、餘りに杞憂に過ぐるか、若くは皮相の見解に墮するものと言はねばなりません。國境を中心とするロシア支那兩國の關係は、支那が完全に改造されたる時、解決されることになりませう。

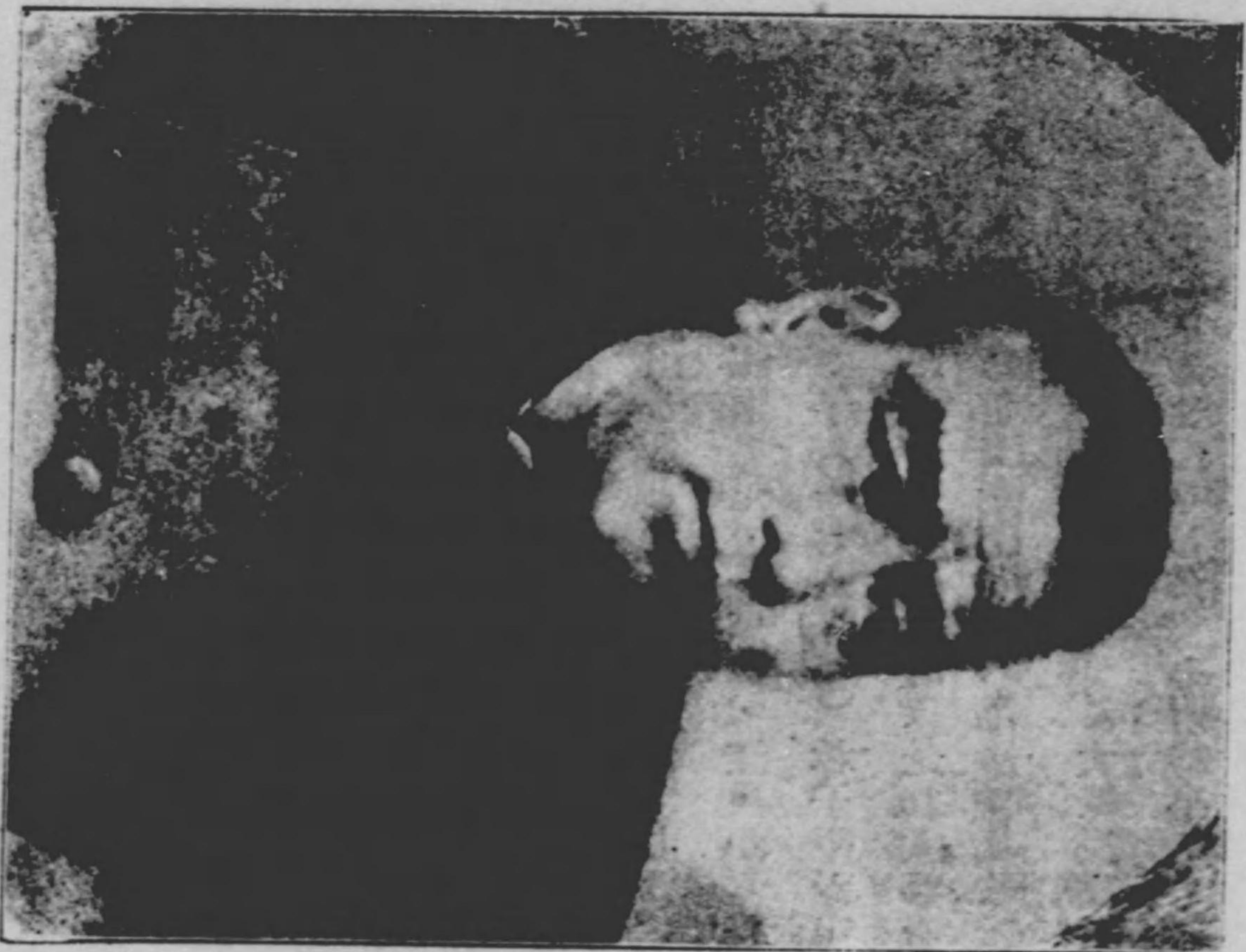
尙この機會に「帝國主義」といふ言葉の内容に就て、世人の誤解を正したいと思ひます。支那の國民運動に於て打倒帝國主義といふことが有力なる標語になつて居りますが、帝國主義は元とイムペリアリズムを譯した言葉であつて、何も日本帝國の國體を意味するものではありません。帝國主義と申せば共和國たる米國でも社會主義國家たるロシアでも事實上明白なイムペリアリズムの國であります。たゞ今日支那の革命黨が打倒帝國主義の砲火をイギリスに集中してゐるのは、イギリスが過去百年間に亘り支那の上に最大の侵略者であつたからであります。それを單純にイギリスは大英帝國といつて帝國だから、帝國主義打破で遣付けやうとしてゐるのである。この次は日本も帝國だから危ないなど、早手廻しに恐怖することはありませぬ。よし日本が歐米帝國主義の跡を踏んで来たとしても、米國やロシアはそれ以上の大帝國主義であります。一つ逆拗ぢぐらる喰はして遣る元氣がありませんか。又今日、英米諸國が支那は北清事變の二の舞を演ずるであらうとて恐れてゐるのも、過去の對支政策の集積の結果であります。勿論軌道を逸した支那國民運動は正してやらねばなりません。英米と一しよになつて支那を恐れることは毫末もありません。



## 後篇 維新日本

### 第六章 明治維新六十年

一、日本は變て維新遺曆を迎へる 私共はこれまで明治維新以來五十年といふことをよく聞かされたものでありますが、其の五十年は夙うの昔に過ぎ去つて、時代は茲に昭和新政を迎へ、明年即ち昭和三年には維新の遺曆が参ります。遺曆といへば民間で老人が赤い衣服を纏ひ、赤ン坊時代に還つた積りでお祝ひをするのであります。國家に於てもその通り、明治維新六十年即ち第六十一年目の聲を聞いて往昔を顧み、今日を思ひ、維新當時の心持で將來の大計を樹立せねばなりません。幕末の頃、日本が今日以上に行詰つて、朝野の論議紛々たりし中に、佐幕論、公武合體論、勤王論の三は其の代表的なものでありましたが、勤王志士が唱へたる王政維新論の勝利によつて、明治の新日本を建設することが出來たのであります。然かもその勤王論の中には、「建武中興に還れ」といふやうな中途半端な議論もあつたのですが、卓識の士が「神武の往昔に還れ」と叫んで、その通り維新の洪漢が進めらるゝに至つたのは幸でありました。神武の往昔に還れといふことは日本建國の精神に還れといふことであつて、つまり新に國を建つるのと同じ意味であります。日本は神武



生先洲南集四



生先齋中鹽六



以來二千六百年に近き歴史を有つた古い國ではあるけれども、明治維新によつて新に甦つた青年の國であるのであります。今やこの青年の國も六十年の間に垢塵が溜り、油が切れ、機關の働きが鈍くなつて來ました。機械ならば當然大掃除をせねばならぬ時が迫つて居ります。

## 二、日本は世界に遅れて出た

ヨーロッパとアメリカとが駭々として發達を遂げてゐた間に、アジヤが其の反對の衰亡に向ひつゝあつたが如く、我が日本も亦徳川三百年の鎖港政策によつて、太平洋に進出し、東亞大陸に伸展する機會を失しました。徳川時代も鎖港以前に在つては、加藤清正が外國貿易を行つたり、伊達政宗が使をローマに派遣したりなどして大に海外發展の途を講じて居りました。鎖港はあの當時の事情已むを得なかつたのかも知れませぬ。然し乍ら之によつて久しい間世界の面に出ることが出来ませんでした。曾て一葉の扁舟を太洋に泛べて怒濤を乗り切るに物ともせなかつた海國男兒の子孫は、江戸から長崎へ行くに水盃を汲み交はすといふ有様になつてしまひました。天明六年（一七八六年）林子平が『海國兵談』を著はし、「二州橋下の水は支那オランダに通ず」と叫んだとき、時の政府は是れ人心を惑はす危険思想なりと言つて斷然その書物の發行を禁止し、著者を處罰しました。寛政十年（一七九八年）本多利明が『西域物語』を著はし、「國都をカムサスカに移して滿洲シベリヤに大植民政策を樹てよ」と論じた時、誰も「あんな氣狂爺が」と言つて相手にしませんでした。その時早くもイギリスはインドを征服し、ロシアはシベリヤの端ま

で來て屢々北海道を襲撃して居りました。文政三年（一八二〇年）佐藤信淵が『混同秘策』を著はして萬國の統一を論じ、文政六年（一八二三年）シーボルトが長崎に來朝してオランダ語を教へたとき、ヨーロッパでは汽船が大西洋を超えて新大陸に航行し、汽車の發明が完成して交通機關に一大革命を齎さんとして居りました。勅に違ひて縦に外國と條約を結んだといふ廉により、井伊大老の首が櫻田門外に吹き飛んだ頃、イギリスは既に香港を奪ふて東洋政策の基礎を定め、ロシアは沿海州を占領して浦潮港の建設にかゝりました。餘り多くの例を引くことを避けますが、こんな調子に日本はすべてが世界に遅れてゐたのであります。

## 三、明治維新の洪願

明治維新は孝明治二代に亘る英明の天皇によつて遂行せられました。私共は孝明天皇の御生活が一切の鹽麩を二度の御菜に召上つたといふが如き窮乏の御様子を承知して涙ぐまじき感無きを得ませぬ。又

戦取りて護れ宮人九重の

御階のさくら風そよくなり

の御製を誦して、如何に巍然たる大丈夫の御性格であつたかを敬慕するのであります。明治天皇亦御歳十六にして位に即かれ、あの内憂外患並び到れるの間に處して如何に鍛鍊を積ませられたかは申上けるまでもありませぬ。明治元年三月十四日五ヶ條の御誓文と共に、國民に下し賜つた御宸翰



を拜讀すれば世界に乗り出した新日本の洪圖は、國民萬古の心胸を開拓せねば已まぬものがある。即ち其の一節に

近來宇内大ニ開ケ各國四方ニ雄飛スルノ時ニ當リ、獨リ我國ノミ世界ノ形勢ニ疎ク、舊習ヲ固守シ一新ノ敦ヲ計ラズ、朕徒ラニ九重中ニ安居シ一日ノ安ヲ偷ミ百年ノ憂ヲ忘ルトキハ、遂ニ各國ノ凌侮ヲ受ケ、上ハ列聖ヲ辱メ奉リ、下ハ億兆ヲ苦シメンコトヲ恐ル。故ニ朕茲ニ百官諸侯ト廣ク相誓ヒ、列聖ノ御偉業ヲ繼述シ、一身ノ艱難辛苦ヲ問ハズ、親ラ四方ヲ經營シ、汝億兆ヲ安撫シ、遂ニ八萬里ノ波濤ヲ拓開シ、國威ヲ四方ニ宣布シ、天下ヲ富嶽ノ安キニ置カンコトヲ欲ス。汝億兆舊來ノ陋習ニ慣ヒ、尊重ノミヲ朝廷ノ事トナシ神州ノ安危ヲ知ラズ、朕一度足ヲ擧グレバ非常ニ驚キ、種々ノ疑惑ヲ生ジ、萬口紛々トシテ朕ガ志ヲナササラシムルトキハ、是レ朕ヲシテ君タル道ヲ失ハシムルノミナラズ、從テ列祖ノ天下ヲ失ハシムルナリ

とあります。加之、明治天皇の鴻業を翼賛するに西郷南洲を始め、山岡鐵舟、副島蒼海、元田永孚等の功臣があつたのでありますから、濼潮として理想の一途に邁進し得たことは、所以なきに非ずであります。

**四、歐化論の時代もあつた** 然かし乍ら維新大業の完成は決して容易なものではありませんでした。鎖國場裡に固陋の見解を抱き、井底の痴夢を食るに慣れた國民の大多數は、維新の精神を理

解すべく餘りに幼稚でありました。それ故政府が一たび斷髮令を出すと、チヨン鬚を切るのが嫌やだと言つて騒動を起しました。廢刀令を出すと武士の魂を取上げるのは怪しからぬと言つて暴擧に出でました。ヤレ部落を解放したから暴動、ソレ兵役は血税と言つて血を絞る取るのでから暴動と此處彼處に騷擾が絶えなかつたのであります。その様な時代が一しきり濟むと今度はその反動として西洋萬能の思想が一世を風靡しました。西郷南洲城山に陣歿して以來、廟堂はハイカラ政治家を以て満たされました。當日歐米列國は日本を對等の國として交際せず、法權稅權の自由を奪つて居りました。そこで時の政治家は、日本國民が何でも西洋人の生活の眞似をすれば文明開化の國と認められて呉れるであらうと思ひました。廟堂の諸公が率先して洋館に住み、洋服を着、洋食を喰べて西洋人と同じ生活をしました。殊に今華族會館のあるところは、あの當時鹿鳴館といふ宴會場でありましたが、其處をダンスホールとして連日舞踏會を催ふし、大臣宰相悉く假裝をして此の場に臨みかくして西洋人の御機嫌を取りさへすれば、一等國の斑に列し得るものと考へて居りました。當時農商務大臣たりし谷干城將軍が此の醜狀を見るに忍びずと做し、「爭取銖鎰費如塵 絃歌涌出滿城春 金殿煌々夜如晝 不照寒村菜色人」の一詩を賦し辭表を叩き付けて去つたのは、有名な話であります。かゝる歐化論歐化思想に對し勃然として興起して來たのは陸羯南、三宅雪嶺等の日本主義でありました。然かも西洋諸國は如何に日本のハイカラが猿眞似をやつて御機嫌を取らうとも、之によ



つて對等の文明國と認むることはありませんでした。

**五、國權は劍の力て回復された** その後日清戦争が起りました。東洋の兩國が干戈の間に相見えざるを得なかつたのは、遺憾なことに相違ありませんでしたが、當時清國の我が國に對する態度は殆ど屬國扱ひをして居たのであつて、ヨーロッパ發行の地圖の中には日本を支那と同色に塗つたものもあつたのです。さればこの戦争は已むを得ずして開かれ、その結果は日本が初めて東洋の獨立國として世界に認めらるゝこととなりました。日清戦争後間もなく我が國民は、三國干涉の大鐵槌を受けて「臥薪嘗膽」十年の苦楚を嘗めましたが、之が爲めに却て日露戦争の勝利を碍、茲に漸く世界列強の伍伴に列して奪はれたる國權を回復するに至りました。實に國權は鹿鳴館の舞踏によらず、劍の力を以て回復することが出来たのであります。勿論この劍の力を單なるサーベルと誤解してはなりません。

**六、今日の絶對行詰り** 然るに日露戦争の勝利によつて「臥薪嘗膽」の國民的目標が無くなつて以來、之に代つて新に國民に嚮ふところを知らしむべき何等の目的は示されませんでした。若し當時聰明なる國民的指導者があつたならば、二十世紀に於ける日本民族の眞使命に就き、極めて鮮明なる目標を示して呉れて居つたであらうと思ひます。悲しい哉その人が無かつたために、茲に日本國全體を擧げて國是もなく國策もなく、たゞよへる海月の如き状態に押し進めて仕舞ひました。

一世を擧げて黄金崇拜の濁流に投じ終りました。幸徳事件の如きものが起りました。續いて明治大帝の崩御に會し、ロンドン・タイムス記者をして「日本はこれから降り坂に向ふのだ」と評せしめながら、何等覺醒の域に向ふなく、漫然としてその日暮らしに打過ぎてゐる間に、世界戦争が起りましたが、一日も早く参加しなければ東洋に於けるドイツ領土の分前に與かることが出来ぬといふので、イギリスに對して同盟援助の押賣りをして、とうとう大戰に参加することとなりました。然かも大戰の結果は、譯なくドイツを東洋の根據地より放逐し、後とは固より米國の百分一にも當りませぬが、兎に角世界の成金國として一時は黄金の流入により奢侈淫靡の風俗流行となりましたが成金と言つても一部分の階級の懷中を肥やしたに過ぎなかつたので、大多數の國民は之が爲めに却て物價騰貴生活難に苦しみ、大戰後に至つては猛烈なる勢を以て失業者を増加し、其の反映として思想界の動搖を來たし、思想界の動搖は更に社會問題を激成して、今や退つ引ならぬ絶對絶命の窮境に立たざるを得ざるに至りました。昭和の新時代と雖も、その名に副はしき時代たらしむるのはこれからであつて決して今日の如き末世の状態を默視すべきではありません。此の窮境を打開して赫々たる光明を仰ぎ得るに至るには、最早尋常一様的手段方法では駄目であります。即ちどうしても非常開展の時機が迫つて居ります。

**七、人口増加一年百三十萬** 更に近年に至りて一層我國勢の非常開展を促してゐるものは人口



問題であります。先づ數字の上から考察致しますると、大正十四年十月一日施行の國勢調査によれば、我國の總人口は八千三百四十五萬人であつて、此の内々地が五千九百九十四萬人、朝鮮が一千九百五十一萬人、臺灣が三百九十九萬人であります。之を前回施行即ち大正九年の國勢調査による内地人口五千六百萬、朝鮮人口一千七百二十六萬人、臺灣人口三百六十五萬人、合計七千六百九十八萬人に比較するに、僅に五年間に於て全體で六百四十七萬人、即ち約六百五十萬といふ純増加を示してゐるのであつて、一ケ年の平均増加数は百三十萬人に上つてゐるのであります。世間普通に年々七八十萬人宛の増加ありと申し、又『帝國統計年鑑』に徴するも、大正十年七十八萬人、大正十一年七十六萬人といふ數字になつて居りますが、之は單なる我國本土丈けの人口増加でありまして、朝鮮、臺灣を合せた日本全體から申さば、實に右述ふる如き百三十萬人といふ驚くべき多數になるのであります。

更に邦人の海外居住者數は如何と見るに、大正十三年末外務省調査によれば、英領カナダ一萬九千六百、北米合衆國十三萬三千、ハワイ十二萬五千七百、メキシコ三千六百、パナマ及キューパバ、ブラジル四萬九千四百、ペルー一萬九百、アルゼンチン二千六百、其の他南米一千二百、ヒリツピン及びグアム八千九百、南アジア二萬一千七百、大洋洲三千八百、支那四萬七千、滿洲十八萬四千五百、極東露領九百、ヨーロッパ二千九百であつて合計六十一萬七千九百といふ數字に達して

る。然かも之れ北米に移民を送つてより約六十年、南米に送つてより約三十年の結果としては餘りに貧弱ではありませぬか。最近の海外移住増加率を見ても年々二三萬人に過ぎませぬ。尤もこの數字も亦内地人のみの統計であつて、外に年々滿洲シベリヤ方面に移住する朝鮮人の數も相當に上つて居ります。現在々々朝鮮人の大部分は、滿洲に於ては龍井村、吉林、奉天、哈爾濱、安東縣を、シベリヤに於てはウラジオストク、ニコリスタを中心として各地に散在し、その數一百萬と稱せられます。かく内地人及び朝鮮人の在外人員を合せても僅に二百萬人未滿であつて、二ケ年の増加數にも足らぬのであります。そこでこの調子に進んで行けば、假りに極めて内輪に見積つて一ケ年百萬宛の増加としても十五年後の昭和十六年には、我國の總人口は一億となり、又内地丈けで計算すれば三十年後の昭和二十九年には八千四百五十萬人の多數となるのであります。

#### 八、危機迫れる食糧問題

人口が増加しても、それだけ食糧の生産が増加して行けば世話はありませぬ。然かし食糧はすべて地上の産物である以上、土地の増加が之に伴はなければならぬのです。我國の人口は六十年間に三倍し、四十年間に二倍となりました。然かもその領土は徳川幕府から繼承したまゝであつて、増加したる人口を容るべき空地としては増して居りませぬ。或は日清戦争後臺灣を、日露戦争後樺太を、又併合によつて朝鮮を増加したといふ者もあるが、此等の土地は決して空地ではありませぬ。それ故人口増加といふことは土地の狭小になつたことを意味します。今



世界の人口密度比較によれば、一平方里の人口ベルジウム三千七百八十二人、オランダ三千二百三十六人、イギリス本國二千三百二十人、日本内地二千二百二十五人、ドイツ一千九百五十六人、イタリー本國一千九百三十二人といふ順序になつて居ります。この點から言へば内地の植民を開拓する餘地が未だ多分にあると言へぬこともありません。然かし乍ら以上列擧の諸國は概して工業國であり、且つ植民地としての廣大なる面積を世界の各方面に所有してゐるのでありますから、我國の状態とは同日の談でありませぬ、嚴格なる意味から言へば、我國には未だ植民地なるものを有つて居りませぬ。植民地を有たぬ工業國といふものが、果して獨自存在の資格があるでありませうか。工業國としての本國が植民地の産出に期待するところは、工業原料と共に實に豊富なる食糧であらねばなりません。イギリスが從來世界第一の工業國として誇つたことも、背後の植民地と連絡を確實にして、其處から食糧を得るに在りました。それでさへイギリスはヨーロッパ戦争の際、ドイツの潜水艇作戦に脅威せられ、絶大の不安と危険とを感じたではありませんか。然らば植民地すらも有たざる國が、ヨーロッパ諸國の糟粕を嘗めて、單なる工業立國に據らんとすることは最も危険な話であります。或は所謂内地植民により、北海道宮崎等の人口稀薄なる土地に農民の移植を奨励すべしとする論者もありますが、そんな姑息手段で到底國家の大事を救ひ得るものではありません。最近、農林當局が我國食糧需給の現状並に三十年後に於ける需給關係推算によれば、昭和二十八年

の内地人口を八千五百萬人と假定し、米麥の一人當消費高を同年に於て米一石二〇一、大麥〇・〇三六、裸麥〇・〇六八、小麥〇・一五四と計算し、又今後三十年間に田地は四十萬二千二百町歩増すが、畑地は十五萬一千百町歩を減することになるとし、同年の産米額朝鮮を合せて九千七百七十萬石、産麥額一千三百七十八萬石としても、次の如き需給關係により、米は一千萬石以上、麥は一千五百萬石以上大なる不足を來たすものと勘定して居ります。

	需要	供給	不足
	千石	千石	千石
米	一〇二、一二五	九一、七〇三	一〇、四二二
麥	二八、九九六	一三、七八三	一五、一一三

**九、商工政策か農業立國か** 今でもさへも生活難、失業問題で死線に彷徨しつゝある状態でありませんが、それが三十年後這の人口増加と食糧不足との危険が加速度を以て促進してゐるのでありますから、朝野共に躍起とならざるを得ませぬ。そこで此の問題の解決策として世に所謂商工政策と農業立國論とがあります。

商工政策とは要するに農業を本位とせずして、イギリス商工立國の後を追へと云ふ議論に歸着するやうです。然かし乍ら之は前に陳べし通り、我國にも亦イギリスの如き廣大なる植民地を有し、



又豊富なる工業資料の産出を假定してかゝらねば甚だ困難の事業であります。現在の日本内地の如く、鐵なく石炭なく石油なき國に於て、果して如何に機械を造り、之を動かさんとするのでありますか。原料を得るにも外國より輸入に待たざるべからず、製品を販賣するにも外國に輸出せざるべからざる状況であります。イギリスが今日までに獲得した世界的地位は、有らゆる條件に於て恵まれて居つた結果であります。尤もそれが爲めに私は決して商工政策を捨てよといふのではありません。イギリスの富強には恵まれたる條件と共に善かれ悪しかれ國民の努力がありました。けれども又一方には時勢の推移と變化とを考へねばなりません。イギリスは今、世紀の分水嶺を下つて絶對級より比較級への墜落を始めつゝあります。このイギリス國勢の變化は、米國の擡頭を主因とするものであります。米國の擡頭はその底力を廣大なる領土に有するからであり、従てそれは單なる商工業の繁盛に非ずして、人類生活の根本に横はる農業の力に待つものであります。カイゼルをして「四週間封鎖すればイギリスは餓死す」と叫ばしめたるイギリスの商工立國は、そんなに有難いものでないことを證明しました。勞農ロシアが戦争と革命と飢饉との餘殃を受けつゝ、猶且つ數年に亘る列強の包圍に堪へ得たことは、ロシアが農業國たりし資であつたからです。

さればとて現在の日本の上に米國で行はるゝが如き大農組織を移植し得るかと言へば、それは到底不可能な話であります。日本の農民生活は世界に於て最も原始的であり、且つ甚だ悲惨であると

言はれて居りますが、斯くの如く漸つと長男丈けしか養ひ得る餘地がなく、二男三男にして田園に留まらんと欲したならば、牛馬の代用となつて勞役せざるを得ざる状態に在つて、若しも大農組織を採用したならば、それは「便所で槍」を振り回すが如く人も自らも傷くに終るであります。さらでだに我國には現在幾十萬の失業者が呻吟してゐる。之に加ふるに數百千萬の農民失業者を以てするとき、この國家は遂に破裂するの外道が無いのであります。

然らば今日我國の社會主義を奉ずる人々はこの人口問題を如何に處理してゐるかといふに、その代表的意見としては、食料革命と産兒制限との二途に盡きるらしくあります。而して海外發展は帝國主義であるから絶対に禁止せねばならぬと言つて居ります。その食料革命といふのは、食料に関する觀念に一切の傳統と因習と迷信とを打破し、根本的の革命を興ふると共に、一面科學の發達による農産物の増收を期したならば人口増加は深く憂ふるに足らぬと言ふのであります。それでも猶深憂に堪へぬならば、遠慮なく産兒制限を行へば宜しいと、斯様な論調であります。固より食料革命といふこと吾人も亦期待せるところであります。實のところ食物の根本的研究は未だ深く行はれて居りませぬ。科學の力によつて昨日まで口になし得ざりしもの、明日之を食ひ得るに至るかも知れませぬ。けれどもそんなことがあつたにしても、それは決して日本のみにて行はるべき筈のものではなく、忽ちにして世界全體に弘通するでせう。否人類生活の向上を期する點から言つても、それは一國



一國民の私すべき筋合ではありませぬ。然かし乍らかゝる速き將來の希望を充て箝めて、急促せる我國人口問題を解決することは不可能の話であります。同時に帝國主義の名に恐れて産兒制限を實行せんとする議論も、日本民族の自殺論として吾人の到底賛同し難きところでもあります。世界の到るところは未だ〳〵空地を占領したる白人が、不合理なる有色人排斥の標札を立て、其の暴虐を振舞つて居るのであります。之を見て所謂見ぬ振りをなし、享樂の影を追ふて産兒制限を實行する者は、眞に義憤を感じざるものであります。義憤を感じざる者如何ぞ世界改造の大旗を樹て、人類救済の大事を敢行することが出来ませうか。吾人は社會主義者としての巨人たるマルクスも、レーニンも實に義憤の結晶であつたことを信じます。

#### 十、民族移動と大邦建設

世界の獨立國は戰前の五十一國より、戰後の六十一國に増加しました。中にも大戰直接の舞臺となつたヨーロッパには幾多の新しきバラック國が増加しました。然かも此等のバラック國は今後も果してその民族自決主義を以て獨立獨行することが出来ませうか。現在のバルチック諸邦や東歐及び中歐諸邦中、幾何かよく國家として踏みこたへて行くものがあるませうか。世界を制するものは依然として大邦であります。第三インターナショナルの如きも、大邦ロシアに寄生してこそ初めてよく世界を脅威するに足るのであります。

邦土の大は人口の多を要求し來ります。今日の南米諸邦の如き、その人口が三倍四倍するも敢て

辭するところではありますまい。ABC三國（アルゼンチン、ブラジル、チレ）の強を以てして之を合するも我日本土の人口よりも少ないのは、南米が國際的に現在の優越を獲得し能はざる最大原因であります。將來の國際場裡に伍せんと欲せば最少人口一億を有たねばなりません。然かも此の一億は同一民族の血を以て固めらるゝを要します。此の點に於て米國が「白人の血」を高唱し、殊にサクソンの優越を將來に保持せんとするもの、敢て異とするに足りませぬ。米國は將來人種問題に於て最も大なる苦惱を嘗めなければならぬ國であります。イギリスも亦インド、エチプト、アイルランド、南アフリカ等の異民族問題に惱んで居ります。ドイツの如きゲルマンの血を以て國家を組織しつゝあるやうでありますが、猶ユダヤ禍の幻影に恐怖して居ります。されば勞農ロシアが其の聯邦組織に於て民族主義を採用しつゝあるは已むを得ざる賢策と稱することが出来ます。そこになると日本は幾くも人口が増加しても單一の日本民族でありますから他國の如き憂患はありません。人類學者に言はしむれば、百數十種の人種が入交つてゐるといひますが痕跡すら殆どなくなるまで同化して居ります。たゞ朝鮮問題のみが日本民族の前に一大試鍊として横つて居ります。

將來の大邦は如何に建設せらるべきか。イギリスの如き大洋帝國もオランダの如く衰へ行くこともありませう。米國の如き大陸帝國もローマの如く滅び去ることがありませう。願くば大洋帝國と大陸帝國と兩様の性能を兼備せなければなりません。古語に國に九年の蓄なきを不足といひ、六



年の蓄なきを急といひ、三年の蓄なきを國に非ずと申して居ります。湯沸しを圍んで無駄話を樂んだスラヴ人にも遊んでは食つて行けざる行詰りの結果、夫の大革命が起つたとすれば、我國の如き猫額の小島國に年々増加する人口を擁し、働きたくとも職業の無き國民が、更に一層行詰らざるを得ぬのは當然であります。現今經國第一の大業は此の過剰人口の遣り場を發見する事であります。今や極北氷圏の地に於てさへ無主の地を發見することが出来ませぬが、之を國際正義に訴へ、國際原則の樹立によつて、我が過剰人口の爲に土地を讓渡若くは開放せしめられぬことはありませぬ。私は數年前から、來るべき三十年間を以て南米に五百萬、アジャ大陸に二千五百萬の人口を移すべき必要を説いて居ります。かくすれば兎に角本土の現在人口の半分を緩和することが出来ます。此の案は果して一個の夢想として顧みられぬでありませうか。將來に於ける南米或はアジャ大陸の開拓を考ふるに、これ位の人口移動は決して過多であるとは申されませぬ。南米の人口が三十年後一億に達すべしと假定して、この人口の内二十分の一位日本民族があつて新世界に貢献するところがあつても差支へあるべしとは思はれませぬ。又日本海を隔てたる對岸アジャ大陸の地に、二千五百萬の日本民族が移動しても毫も驚くには當らぬのであります。十八年前時の外相小村侯は議會の壇上に於て滿韓移民集中論を唱へ、須らく一千五百萬の國民を此處に移植すべしと論じましたが、今日ではその「韓」字に代ふるにシベリヤの四字を以てすべきものであります。私は朝鮮人を滿洲

へ追ひ出し、その後へ日本人が坐はるといふが如き利己主義的な植民策には到底賛意を表することが出来ませぬ。日本民族自ら廣漠たる大陸に飛び出せば宜しいではありませんか。私はこの民族移動の大勢が、日本改造の直後に來るものであることを確信します。民族移動を以て西洋中世に埋没せる一個の史實と做すが如きは時代の飛躍と地球の回轉とを知らざる者であります。

### 十一、寒帯文明時代

來るべき文明は寒帯に於て築かれるであります。白人は十八九の兩世紀に於て熱帯を占領しました。而して其處に産する物資を本國に齎らして所謂ヨーロッパ文明を建設しました。けれども熱帯は結局人類の棲息に適應せざることを立證したのであります。少くとも

白人の生活には不適當でありました。白人は熱帯に於ては三代にして子孫が絶滅致します。それにも拘らず、萬里の雄圖を抱いて其の開拓に従つたことは壯とせざるを得ませぬ。かくして二十世紀に於てはたゞ寒帯のみが残されました。カナダ、アラスカ、シベリヤ、或はバタゴニヤ。此等の廣大なる面積に於ては極めて最近に至るまでその開拓が放擲されておりました。然るにヨーロッパ大戰以來、政治地理學上に起つた世界の一大變化は必然に寒帯開發の傾向を馴致して來ました。夫の北氷洋中に横る叢爾たるウランゲル島が、曩きに英、米、露三國間に爭奪されたのは、此の島が將來に於ける北氷洋航空路の要衝として、經濟上、國防上、喫緊なる使命を有して居るからであります。ロシアは今度びこの島をレーニン島と改稱し、幾十組のエスキモー族移民を送りました。シベ



リヤと其の緯度、面積、人口密度を略々同じうしてゐるのはカナダであります。カナダ人は自國を二十世紀の國、合衆國を十九世紀の國と呼んで居ります。實際米國が將來カナダを領有することが出来なかつたならば、十九世紀の國と言はれても致方はありますまい。アムンゼン大佐の北極縦斷飛行の成功は從來の寒帯學說を正に覆さんとしてゐます。文明人は北極圏内に於て、土人と同じく生活に堪へ得ることを立證しました。寒帯に産する礦物、動物、植物は優に人類の新生活に供給することが出来ます。況して滿洲、シベリヤの如きは北極圏を南に去ること十數度であつて、オムスク、ニコライエフスクを通過する緯度は、ヨーロッパに於けるロンドン、ベルリンを通過して居ります。固より潮流の關係があつて同一に律することは出来ずとも、我が極北の領土たる占守島の如き北緯五十度五十六分であつて、ロンドンの五十一度三十分、ベルリンの五十二度四十分よりも南方に位するのであります。

一九二二年（大正十年）十月二日のニューヨーク・タイムスは、日本の進むべき道なるものを指して、「軍費を割きて土地を購ひ、大人口の捌口を求めよ」と論じて居ります。彼は曰く

東部シベリヤ及び蒙古には日本の利用すべき廣大なる土地がある。滿洲は事實上日本の手中に在る。恐らく支那は正式讓渡を承諾するであらう。日本が突付けた條項の下に屈服するよりは相當額にて賣渡す方が支那にとつて便宜であらう。アフリカに於ても委任統治下のドイツ領植民地の

或るものを讓受ける等の方法によつて發展の餘地を招くことも出来るであらうし、殊に中央アジアには文化の程度の頗る低い人口稀薄な土地が甚だ多い。日本が若し一ヶ年六億弗？の海軍費を節約するならば廣汎なる土地を買入れる資金は何時でも浮かぶであらう

と。すべてを金錢取引にて解決せよといふところ、弗外交の米國式を發揮してゐますが、この所論の中には日本將來の國策に對する幾多の暗示が含まれてゐることも事實であります。

**十二、二つの使命と維新日本** 日本及び日本民族は、今與へられたる二つの使命に當面して居ります。一つは日本それ自らの生活問題であり、一は之を他に擴充して、國旗に示されたる太陽の理想を六合八紘に宣ぶることあります。日本民族の理想が正義であり、至善であつたならば、此の二つの使命は實に二にして一となり、何等矛盾も撞着も生じませぬ。誰か正當なる自己の生活を發展し擴充して行くことに妨害を加ふるものがありませうか。吾人は固より安價なる選民思想には反對せざるを得ませぬ。然かし乍ら日本民族の一人一人が、大義を四海に布く神の使となつて、世界の各方面に出動し、光明の遍照を妨ぐる惡魔を除去掃滅するに努むるとき、初めて日本建國の理想を遂行することが出来るのであります。吾人は一日も早くかゝる時代が來らんことを待望して居ります。全世界を通じて民衆の上に立つ哲人政治の時代が來らなければ、世界の平和を望むが如きは到底不可能事であります。全世界の事は姑く措き、單に我日本の上にかゝる時代を招徠せんが爲



めにも、今日に見るが如き萬惡の根源を掃滅して、建國の理想に適はしき國家を建設せねばなりませぬ。所謂上流社會は如何なる生活をなして居りますか。權力階級の人々は何を考へて居りますか。既成政黨の連中はどんな事をして居りますか。日々續出する疑獄事件や收賄事件や、免れて耻なき徒の横暴跋扈などを見せ付けらるゝ時、吾人は純眞なる同志の決意と誓盟とを以て、一日も早く回天の大業にいそしみ、維新日本の建設を了して、世界の大道に打つて出でたいと存じます。殊に西郷南洲先生の滿五十年(九月廿四日)と大鹽中齋先生の滿九十年(陰曆三月廿七日)とを、今年に迎ふるに當り、この感が深いのであります。然らば如何に改造すべきかの具體問題に移りますが、それは次の著述によつて研究することに致しませう。

やしほ路のつらなるかきり男の兒らの

おもひのふへきときはきたりぬ

(昭和二年紀元節所感)

### 世界維新に面せる日本終

昭和二年五月五日印刷  
昭和二年五月十日發行

定價金五拾錢

郵税一册四錢

第一新書社  
世界維新に面せる日本

著者 東京府下豊多摩郡中野町中野七六七 滿川 龜太郎

發行者 東京府下豊多摩郡中野町中野七六七 笠木 良明

印刷者 東京市小石川區高田豊川町一一番地 白木 淺治郎

發行所

東京市外中野町  
中野上ノ原七六七  
東京市外大久保町  
百人町三一七

一新日本協會社

振替東京三四三一八番  
電話四谷八八二番



## 普く天下に同志を求む

一新社の名は新しい。然かし乍ら我等の結盟は、大正八年猶存社の名に於て以來益々その信念を固め、陣營を持続して参りました。我等は腐敗墮落せる舊日本打破の目標に於てまがふべくもなき急進主義者であります。同時に正大剛健なる新日本建設の理想に於て何人にも劣らざる國家主義者であります。我等は日本國家及び日本民族の運命を信じ、日本が亞細亞解放及び世界革命の旋風の渦心であらねばならぬために、日本國家の改造を當先の急務と致します。我等の同志はすべての階級を超越し、またすべての階級に没入して、到るところに塹壕を掘りつゝあります。然かも我等の志を達成せしめんがためには更に一人でも多くの新しき同志を滿天下に要求します。我等は舊式忠君愛國團體の如く總裁を置いたり會長理事を設けたりしませぬ。同時にサヴェート組織に於ける如く當世流行の執行委員會を置かうとも思ひませぬ。道と同じうし義相協はば自ら聚合すべきであります。同感共鳴の士は幸に加盟の意志を表示せられんことを。

昭和二年五月

一新社同人

東京市外中野町上ノ原七六七

313

3



